

【(小項目)1-3-2】	現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修 [現代舞台芸術関係]	【評定】			
		A			
		H20	H21	H22	H23
		A	A	A	A

【法人の達成すべき計画】

3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修 [現代舞台芸術関係]

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修
 高い技術と豊かな芸術性を備えた実演家等を育成するため、実演家等の研修を次のとおり実施する。
 ア オペラ研修及びバレエ研修については、国際的な活躍が期待できる水準の実演家を育成することを目標とし、演劇研修については、確かな演技力等を備えた次代の演劇を担う実演家を育成することを目標として、第一線で活躍する各分野の専門家等を講師として実践的・体系的なカリキュラムにより、中期目標の期間中に以下の人数の研修修了を目途とした研修を実施する。
 ①オペラ研修:25人程度(研修期間3年間)
 ②バレエ研修:30人程度(研修期間2年間)
 ③演劇研修:75人程度(研修期間3年間)
 イ 実施に際しては、対象とする分野、人数等について、関係団体等の要望、専門家の意見等を踏まえ、計画的・系統的に行うとともに、成果の検証とその結果に基づき、研修分野・規模について不断の見直しを行う。

(3) 実施に当たっての留意事項
 ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、広報活動を充実する。
 イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への参画に努める。
 ウ 幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の特長を活かし、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流について検討・実施する。
 エ 外部評価、研修実施方法等について、外部の有識者等を含めた委員会等において検討し、その結果を踏まえ、共通科目の統一の実施などメニューや研修実施方法等の改善を図るとともに、事業全体の経費の効率性の向上に努める。また、研修修了生の動向把握により、成果の検証を行う。
 オ 国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力を努める。

実績報告書等 参照箇所

業務実績報告書 180頁～193頁

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(百万円)	261	250	226	190	168
従事人員数(人)	7	7	7	6	4

1) 決算額は、新国財団:養成研修費(財団委託費)を計上している。
 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価																																																																							
<p>3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家等その他の関係者の研修</p> <p>中期計画に基づき、次のとおり伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修を実施したか。</p> <p>(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修</p> <p>ア 以下のとおり研修を実施したか。</p> <p>① オペラ研修(研修期間 3年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 13 期生(4 名)の 3 年目の研修を行い、修了を予定。 ・ 第 14 期生(5 名)の 2 年目の研修を行ったか。 ・ 第 15 期生(5 名)の 1 年目の研修を行ったか。 ・ 第 16 期生(5 名程度)の募集を行ったか。 ・ 研修発表会等(3 公演実施) <ul style="list-style-type: none"> a. 研修公演(新国立劇場中劇場) <ul style="list-style-type: none"> 3 月 1 日～3 日、3 回 b. 試演会 オペラ・ハイライツ(新国立劇場小劇場) <ul style="list-style-type: none"> 7 月 28 日～29 日、2 回 c. 歌唱コンサート(新国立劇場中劇場)8 月下旬～10 月下旬、1 回 ・ 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、春季(4 月)及び秋季(10～11 月)に海外研修を行ったか。 ・ オペラ研修所第 16 期生について、多くの応募者を確保するため、選考を早期(秋季)に実施したか。 	<p>1. 研修の実施</p> <p>(1) 研修の実施状況</p> <table border="1" data-bbox="584 217 1722 571"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">研修期間</th> <th rowspan="2">研修実績</th> <th rowspan="2">うち修了者</th> <th rowspan="2">年度計画</th> <th colspan="2">中期計画(20～24 年度)</th> </tr> <tr> <th>修了者累計</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">オペラ</td> <td>13 期(3 年次)</td> <td>3 年</td> <td>4 名</td> <td>4 名</td> <td>4 名</td> <td rowspan="3">24 名</td> <td rowspan="3">25 名程度</td> </tr> <tr> <td>14 期(2 年次)</td> <td>3 年</td> <td>5 名</td> <td>—</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td>15 期(1 年次)</td> <td>3 年</td> <td>5 名</td> <td>—</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">バレエ</td> <td>8 期(2 年次)</td> <td>2 年</td> <td>6 名</td> <td>6 名</td> <td>6 名</td> <td rowspan="2">30 名</td> <td rowspan="2">30 名程度</td> </tr> <tr> <td>9 期(1 年次)</td> <td>2 年</td> <td>6 名</td> <td>—</td> <td>6 名程度</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">バレエ予科</td> <td>3 期(2 年次)</td> <td>2 年</td> <td>2 名</td> <td>2 名</td> <td>2 名</td> <td rowspan="2">10 名</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>4 期(1 年次)</td> <td>2 年</td> <td>3 名</td> <td>—</td> <td>若干名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">演劇</td> <td>6 期(3 年次)</td> <td>3 年</td> <td>14 名</td> <td>14 名</td> <td>15 名</td> <td rowspan="3">67 名</td> <td rowspan="3">75 名程度</td> </tr> <tr> <td>7 期(2 年次)</td> <td>3 年</td> <td>12 名</td> <td>—</td> <td>12 名</td> </tr> <tr> <td>8 期(1 年次)</td> <td>3 年</td> <td>12 名</td> <td>—</td> <td>12 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 研修発表会等の実施</p> <p>オペラ:3 回(7 月試演会、ブリティッシュ・ガスの支援によるガラ・コンサート、3 月研修所公演他)、その他 3 回(浜離宮ランチタイムコンサート他)</p> <p>バレエ:3 回(第 8 期生・第 9 期生合同発表会、2 月研修公演、バレエ★アステラス 2012)その他 3 回(第 8 期生自作自演発表会他)</p> <p>演劇:4 回(第 6 期生試演会①、朗読劇公演、第 6 期生試演会②、第 6 期生修了公演)</p> <p>(3) 募集</p> <p>オペラ第 16 期生(研修期間 3 年間):5 名合格(93 名中)</p> <p>バレエ第 10 期生(研修期間 2 年間):6 名合格(46 名中)</p> <p>バレエ予科第 5 期生(研修期間 2 年間):3 名合格(31 名中)</p> <p>演劇第 9 期生(研修期間 3 年間):12 名合格(125 名中)</p> <p>2. 24 年度の募集等に向けた研修分野・規模についての見直し</p> <p>各研修所で定期的に行われる講師会等において、平成 24 年度の募集等に向けた検討を行い、研修分野・規模については、変更を行わないことにした。</p> <p>3. 実施に当たっての留意事項</p> <p>(1) 広報活動の充実</p> <p>研修修了生の活動状況を随時把握するほか、ホームページやパンフレットに加え、新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」誌上コラム、ブログ、Facebook などの新たな情報発信手段を通じて研修の様子や研修所公演準備の様子を紹介するとともに、修了生の活動状況などの成果を公表し、また、研修所公演での映像による研修内容の紹介や外部への公演出演を通して研修事業の意義を広く周知した。</p> <p>(2) 文化普及活動等への参画</p> <p>オペラ研修生が、浜離宮朝日ホールや公益財団法人三鷹市芸術文化振興財団主催のコンサート等に出演した。</p> <p>バレエ研修生が、子供たちのレッスン見学会やブリティッシュ・ガス主催のイベントに出演した。</p>	区分	研修期間	研修実績	うち修了者	年度計画	中期計画(20～24 年度)		修了者累計	目標	オペラ	13 期(3 年次)	3 年	4 名	4 名	4 名	24 名	25 名程度	14 期(2 年次)	3 年	5 名	—	5 名	15 期(1 年次)	3 年	5 名	—	5 名	バレエ	8 期(2 年次)	2 年	6 名	6 名	6 名	30 名	30 名程度	9 期(1 年次)	2 年	6 名	—	6 名程度	バレエ予科	3 期(2 年次)	2 年	2 名	2 名	2 名	10 名	—	4 期(1 年次)	2 年	3 名	—	若干名	演劇	6 期(3 年次)	3 年	14 名	14 名	15 名	67 名	75 名程度	7 期(2 年次)	3 年	12 名	—	12 名	8 期(1 年次)	3 年	12 名	—	12 名	<p>・オペラ、バレエ、現代演劇とも応募者数と合格者数のバランスがよく、また、研修修了生の定着率は 99%、転業者等は 1 名であり、研修の成果も挙がっていると判断される。</p> <p>・オペラ研修において、実際の舞台に立つ機会を増やしたり、バレエ研修において海外研修を実施するなどして、国際的な水準に達する人材の育成を目指してほしい。</p> <p>・本事業は、意義のある事業ではあるが、1 人当たり年間 2,400 千円の国費が投入されていることから、実施の必要性を国民に説明する必要がある。</p>
区分	研修期間						研修実績	うち修了者	年度計画	中期計画(20～24 年度)																																																															
		修了者累計	目標																																																																						
オペラ	13 期(3 年次)	3 年	4 名	4 名	4 名	24 名	25 名程度																																																																		
	14 期(2 年次)	3 年	5 名	—	5 名																																																																				
	15 期(1 年次)	3 年	5 名	—	5 名																																																																				
バレエ	8 期(2 年次)	2 年	6 名	6 名	6 名	30 名	30 名程度																																																																		
	9 期(1 年次)	2 年	6 名	—	6 名程度																																																																				
バレエ予科	3 期(2 年次)	2 年	2 名	2 名	2 名	10 名	—																																																																		
	4 期(1 年次)	2 年	3 名	—	若干名																																																																				
演劇	6 期(3 年次)	3 年	14 名	14 名	15 名	67 名	75 名程度																																																																		
	7 期(2 年次)	3 年	12 名	—	12 名																																																																				
	8 期(1 年次)	3 年	12 名	—	12 名																																																																				

- ② バレエ研修(研修期間2年)
- 第8期生(6名)の2年目の研修を行い、修了を予定。
 - 第9期生(6名)の1年目の研修を行ったか。
 - 第10期生(6名程度)の募集を行ったか。
予科生については以下の通り研修及び募集を行ったか。
 - 第3期生(2名)の2年目の研修を行ったか。
 - 第4期生(若干名)の1年目の研修を行ったか。
 - 第5期生(若干名)の募集を行ったか。
 - 研修発表会等(3公演実施)
 - 合同発表会(新国立劇場中劇場)
10月28日、1回
 - 研修公演(新国立劇場中劇場)
2月16日～17日、2回
 - 「バレエ・アステラス★2012」(新国立劇場オペラ劇場)
7月22日、1回
- ③ 演劇研修(研修期間3年)
- 第6期生(15名)の3年目の研修を行い、修了を予定。
 - 第7期生(12名)の2年目の研修を行ったか。
 - 第8期生(12名)の1年目の研修を行ったか。
 - 第9期生(12名程度)の募集を行ったか。
 - 研修発表会等(4公演実施)
 - 修了公演(新国立劇場小劇場)
2月上旬

- (3) 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流
12月11日に五館合同特別講義を開催した(講師:野村万作)。
- (4) 委員会における検討等(メニューや研修の実施方法等の検討、研修修了生の動向把握)
各研修所において定期的に講師会を開催し、研修状況の確認を行うとともに、修了生の動向を把握し、研修事業の成果の検証と研修の効率化のための各種の見直しを図った。

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- 順調に今年度のカリキュラムを実施し、当初の目的を充分達成することができた。
- いずれの研修所においても第一線で活躍する各分野の専門家等を講師とする実践的・体系的なカリキュラムによって研修を実施した。各時期に行われる発表会、試演会、研修公演等ではその成果を広く国民に示しており、高い評価を得ている。
- 各研修所において定期的に開催する講師会や修了生の動向把握を通じて、研修事業の成果の検証と、研修の効率化を実現することができた。
- 新たな試みを含む多様で充実した広報活動により国民の関心を喚起し、事業の周知を図ることができた。研修所のホームページへのアクセスをより分かりやすく工夫するとともに、研修風景の動画や最新の修了生の活躍状況など、より一層の情報提供に努めた。また、オペラ研修所ブログ、演劇研修所フェイスブックなどの新たな情報発信手段を用いて、研修の様子、研修公演準備の様子などを継続的に発信し、研修所の活動に対してより一層の理解促進を図った。
- 文化普及活動への参画に努める観点から、研修生や修了生が外部で実施されたコンサートに出演するなど、様々なアウトリーチ活動に積極的に参加し、成果を挙げることができた。
- オペラ研修及びバレエ研修において、他団体が主催する公演等に積極的に参加し、文化普及活動の幅を広げることができた。
- 五館合同特別講義、研修生交流会等を通じ、伝統芸能分野との相互交流を進めることができた。

3-(2)-① オペラ研修

1. 研修の実施

第13期生(4名、3年目)、第14期生(5名、2年目)、第15期生(5名、1年目)の研修を行い、第13期生が修了した。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師	回数
第13期	実技 計1,018回	オペラ実習 木村俊光、大藤玲子、谷池重紬子 他	767回
		身体表現 三浦安浩、伊藤明子、伊藤範子、橋本佳子 他	251回
	座学 計151回	講義	0回
		語学 英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語	151回
	その他 計29回	舞台実習他 試演会、研修所公演 他	29回
合 計			1,198回
第14期	実技	オペラ実習 木村俊光、大藤玲子、谷池重紬子 他	890回

- b. 研修公演(新国立劇場小劇場)
8月または9月
- c. 試演会2公演
・第6期生試演会①
(新国立劇場小劇場)
7月下旬
・第6期生試演会②
(新国立劇場小劇場)
12月中旬

イ 研修の実施に当たっては、対象とする分野、人数等について、関係団体等の要望、専門家の意見等を踏まえ、成果の検証とその結果に基づき、研修分野・規模について、引き続き見直しを行ったか。また、バレエ研修所におけるバレエ教師の養成、演劇研修における演出家の養成について、海外の実施状況やその実施の可能性等を調査したか。

(3) 実施に当たっての留意事項

ア 広報活動の充実

養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、ホームページでの情報発信など広報活動を充実し、事業の周知徹底に努めたか。また、伝統芸能の伝承者の募集について、ホームページでの情報の告知、マスコミ、学校等への働きかけを積極的に行うほか、研修内容を紹介する広報用DVD及びパンフレットの活用、研修見学会等の内容の充実により応募者の増加を図ったか。

イ 文化普及活動等への参画

研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るため、児童・生徒等の体験学習や劇場外における様々な文化普及活動への参画に努めたか。

c. オペラ研修、バレエ研修、演

	計1,145回	身体表現	三浦安浩、伊藤明子、伊藤範子、橋本佳子 他	255回
	座学 計168回	講義		0回
		語学	英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語	168回
	その他 計27回	舞台実習他	試演会、研修所公演 他	27回
合 計				1,340回
第15期	実技 計1,217回	オペラ実習	木村俊光、大藤玲子、谷池重袖子 他	959回
		身体表現	三浦安浩、伊藤明子、伊藤範子、橋本佳子 他	258回
	座学 計169回	講義	五館合同特別講義	1回
		語学	英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語	168回
	その他 計29回	舞台実習	試演会、研修所公演 他	17回
		見学他	劇場見学、稽古見学 他	12回
合 計				1,415回

3. 発表会等

(1) 研修公演

- ① 試演会「コジ・ファン・トゥッテ」～重唱で綴るオペラ短縮版～（7月28・29日、2回、小劇場）
入場料：2,000円、入場者数：526人、出演：研修生全員・修了生3人
- ② プリティッシュ・ガスの支援によるガラ・コンサート「NNTT Young Opera Singers Tomorrow」（9月22日、1回、中劇場）
入場無料、入場者数：686人、出演：13期生3名・14期生3名・15期生3名・修了生1名
- ③ 研修所公演「カルディヤック」P.ヒンデミット作曲（3月1日～3日、3回、中劇場）
入場料：4,200円・1,500円（Z席）、入場者数：1,428人、出演：研修生全員・修了生1名・賛助出演2名

(2) その他出演

- ・ 浜離宮ランチタイムコンサート「木村俊光と巡るオペラの旅2」（5月23日、1回、浜離宮朝日ホール）
主催：朝日新聞社、入場者数：550人、出演：13期生4名・14期生5名・15期生1名・修了生1名
- ・ 浜離宮ランチタイムコンサート「木村俊光と巡るオペラの旅3」（9月26日、1回、浜離宮朝日ホール）
主催：朝日新聞社、入場者数：550人 出演：14期生5名・15期生5名・修了生1名
- ・ トウキョウ・モーツァルト・プレイヤーズ オペラ・プロジェクト第4弾「コジ・ファン・トゥッテ」（演奏会形式）（12月9日、1回、三鷹市芸術文化センター 風のホール）
主催：公益財団法人三鷹市芸術文化振興財団／有限会社ミュージック・マスターズ、入場者数：334名、出演：14期生2名・15期生3名・修了生1名

(3) 海外研修

- ・ オペラ研修所第13期生が海外研修を実施した（4月1日～24日、アムステルダム及びデュッセルドルフ）。
- ・ オペラ研修所第14期生が海外研修を実施した（9月30日～10月20日、アムステルダム）。

4. 募集・選考の状況

劇研修において、研修生による発表会等を全国で実施するように努めたか。また、他の劇場、コンサートホールや文化施設、協賛企業などと協力し、研修生及び研修修了生の外部公演への出演依頼に積極的に応じて、文化普及活動への参画に努めたか。

ウ 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

幅広い分野で養成・研修事業を実施している振興会の長をを活かし、伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流を進め、伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施したか。

エ 委員会における検討等

外部専門家による委員会等において、メニューや研修の実施方法等の検討を行うとともに、その結果を踏まえ、共通科目の統一の実施などの改善を図ったか。また、研修修了生に現在の活動報告を求めるなど動向把握に努め、修了後の活動を通じての成果検証等を行ったか。

オ 公演制作者・舞台技術者等の研修の受入れ等

国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力を努めたか。

・ 大学卒業以上、声楽について極めて優れた実力を有する者で、入所時年齢が35歳以下の者を対象に、第16期生の募集を行った。応募総数93名、10月29日から11月12日まで、3次にわたる選考を経て、5名（ソプラノ2名、テノール1名、バリトン1名、バス1名）が合格した。

5. 研修内容・実施方法等の検討

- ・ 主に、午前中は研修生全員による基礎演技指導及び語学研修、午後は声楽の個人レッスンとし、個人レッスンは各研修生が1日1回以上受講した。
- ・ 年間を通じて延べ6名の海外講師を招聘し、ネイティブの指導者による声楽指導、マスタークラスを行った。
- ・ 基礎演技研修として、主任講師によるオペラのシーンスターディを行った。年間数回の発表の機会を設け、うち1回は実際のオペラ劇場舞台を使用して行い、劇場に設けられた研修所の利点を活用した。
- ・ 語学研修は本年度より特に英語に力を入れ、秋に実施される海外研修（於オランダ、主に英語による）に備えた。
- ・ 実演研修の機会としては、年2回の研修公演の他、新しい試みとして、ブリティッシュ・ガス・グループ（BGG）の支援によるガラ・コンサートを開催した。
- ・ 従来行っていたクラシック専用ホールにおけるコンサート（自主開催）に代わり、朝日新聞社（浜離宮朝日ホール）や三鷹市芸術文化振興財団（三鷹市芸術文化センター風のホール）といった外部主催団体からの依頼出演を以て、実演研修の機会を増やした。
- ・ 最終年次に行っていた海外研修については、本年度より2年次に実施することとし、アムステルダムオペラスタジオ・ネザーランドに派遣。なお移行期間として、13期生（3年次）を4月上旬、14期生（2年次）を10月上旬にそれぞれ派遣した。

3-2-1-2 バレエ研修

1. 研修の実施

第8期生6名及び予科3期生2名が、2年目の研修を行い修了した。第9期生6名及び予科生4期生3名が1年目の研修を行った。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師	回数	
第8期	実技 計637回	クラシカル・バレエ	新井咲子、坂西麻美、岸辺光代、佐藤勇次、鈴木和子 他	500回
		キャラクター、コンテンポラリー・ダンス	ゲンナーディ・イリイン、木賀真佐子 他	103回
		身体表現	三輪えり花、松井工	34回
	座学 計61回	講義	福田一雄、芳賀直子、中西麻澄、鳥取二三子、新谷佳冬 他	42回
		語学	ブリティッシュ・カウンシル(英語)	19回
	その他 計39回	舞台実習	新国立劇場バレエ団公演、バレエ研修所発表会、修了公演 他	15回
舞台鑑賞 他		主催オペラ・バレエ・現代舞踊・演劇公演 他	24回	
合計			737回	

第9期	実技 計641回	クラシカル・バレエ	新井咲子、坂西麻美、岸辺光代、佐藤勇次、鈴木和子 他	490回	
		キャラクター、コンテンポラリー・ダンス	ゲンナーディ・イリイン、木賀真佐子 他	117回	
		身体表現	三輪えり花、松井工	34回	
	座学 計59回	講義	福田一雄、芳賀直子、中西麻澄、鳥取二三子、新谷佳冬 他	40回	
		語学	ブリティッシュ・カウンシル(英語)	19回	
	その他 計39回	舞台実習	新国立劇場バレエ団公演、バレエ研究所発表会、修了公演 他	14回	
		舞台鑑賞	主催オペラ・バレエ・現代舞踊・演劇公演、劇場見学 他	25回	
	合 計				739回
	予科 3期	実技 計549回	クラシカル・バレエ	新井咲子、坂西麻美、岸辺光代、志賀三佐枝、西川貴子 他	472回
			キャラクター、コンテンポラリー・ダンス	ゲンナーディ・イリイン、木賀真佐子 他	43回
身体表現			三輪えり花、松井工	34回	
座学 計50回		講義	福田一雄、芳賀直子、中西麻澄、有澤宗智 他	31回	
		語学	ブリティッシュ・カウンシル(英語)	19回	
その他 計35回		舞台実習	バレエ研究所10月研修発表会、修了公演 他	11回	
		舞台鑑賞他	主催オペラ・バレエ・現代舞踊・演劇公演 他	24回	
合 計				634回	
予科 4期	実技 計539回	クラシカル・バレエ	新井咲子、坂西麻美、岸辺光代、志賀三佐枝、西川貴子 他	465回	
		キャラクター、コンテンポラリー・ダンス	ゲンナーディ・イリイン、木賀真佐子 他	40回	
		身体表現	三輪えり花、松井工	34回	
	座学 計50回	講義	福田一雄、芳賀直子、中西麻澄、有澤宗智 他	31回	
		語学	ブリティッシュ・カウンシル(英語)	19回	
	その他 計30回	舞台実習	バレエ研究所10月研修発表会、修了公演 他	5回	
		舞台鑑賞 他	主催オペラ・バレエ・現代舞踊・演劇公演、劇場見学 他	25回	
合 計				619回	

3. 発表会等

(1) 研修公演

① 第8期生・第9期生合同発表会(10月28日、1回、中劇場)

入場料:2,000円、入場者数:934人、出演:第8期研修生・第9期研修生・予科生

ゲスト出演:逸見智彦、三木雄馬

プログラム:◎キャラクター・ダンス(振付・指導:ゲンナーディ・イリイン)

◎研修生振付作品

◎クラシカル・バレエ

『パキータ』パド・トロワ、『海と真珠』、『白鳥の湖』第2幕のグラン・アダージオ、『ディアナとアクティオン』、『シンフォニエッタ』ほか

② 研修公演「エトワールへの道程 2013 新国立劇場バレエ研究所の成果」(2月16・17日、2回、中劇場)

入場料:3,000 円、入場者数:1,086 人
 出演: 第 8 期研修生・第 9 期研修生・予科生
 ゲスト出演: 逸見智彦、清瀧千晴、中家正博
 指揮: アレクセイ・バクラン 管弦楽: 新国立劇場アンサンブル 監修: 牧阿佐美
 プログラム: ◎クラシカル・バレエ
 『ワルツ』『眠れる森の美女』第 3 幕パ・ド・ドゥ『ドン・キホーテ』グラン・パ・ド・ドゥ
 ◎研修生振付作品
 ◎クラシカル・バレエ
 『コッペリア』第 3 幕ディヴィルティスマン

③ 平成 24 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「バレエ・アステラス☆2012」(7 月 22 日、1 回、オペラ劇場)

入場料:5,000 円(S席)、3,000 円(A席)、2,000 円(B席)、1,500 円(Z席)
 入場者数:1,604 人

出演: 新国立劇場バレエ研修所修了生・研修生ほか
 指揮: デヴィッド・ガルフォース 演奏: イルミナートフィルハーモニーオーケストラ ※一部録音音源による上演あり。

(2)その他出演

- ① 第8期生自作自演発表会(9 月、1 回、芸能花伝舎)
- ② 「ブリティッシュ・ガスのタベ」におけるパフォーマンス(10 月 24 日、1 回、新宿パークハイアット)
- ③ 子どもたちのレッスン見学会(12 月 16 日、1 回、バレエリハーサル室) 入場者数 47 人

(3)舞台実習

- ① 舞台実習 新国立劇場公演「シンデレラ」(12 月、7 回、オペラ劇場)

4. 募集・選考の状況

- ・ バレエ研修第 10 期生 6 名の募集に対し 46 名(女性 43 名、男性 3 名)の応募があった。書類選考、3 次にわたる実技及び面接の結果、6 名(女性 4 名、男性 2 名)が合格した。
- ・ 予科生若干名の募集に対し 31 名(女性 28 名、男性 3 名)の応募があった。書類選考、3 次に亘る実技及び面接の結果、3 名(女性 2 名、男性 1 名)が合格した。

5. 研修内容・実施方法等の検討

- ・ 今年度より新井咲子講師が主任講師となり、また新国立劇場バレエ団プリンシパルダンサー西川貴子が新たに講師に加わった。
- ・ 演劇基礎研修に松井工(文学座)を新たに迎えた。
- ・ ロシア・マリインスキー劇場バレエミストレスであるタチヤナ・テーレホワ講師による特別講義を 3 週間にわたり実施した。
- ・ 下記の方々による、芸術論についての講義を実施した。
 ピーター・マックミラン(杏林大学客員教授、文学博士、詩人)、矢崎彦太郎(指揮者)、河村晴久(能楽師)、野村万作(狂言師)

6. その他

・平成25年バレエ研修所入所希望者を対象に、夏期特別講習会を開催した(8月20日～24日 場所:新国立劇場Bリハーサル室 参加人数:109名)。

3-(2)-③ 演劇研修

1. 研修の実施

第6期生(14名3年次)、第7期生(12名、2年次)、第8期生(12名、1年次)の研修を行い、第6期生が修了した。

2. 主な授業及び回数、主な講師

区分	授業内容	主な講師・内容	回数
第6期	実技 計613回	演劇実習	試演会①、朗読劇、修了公演稽古、試演会②、修了公演
		演技講習	高泉淳子、ローナ・マーシャル
	合 計		
第7期	実技計 1,213.5回	声と演技	池内美奈子
		演技基礎	ローナ・マーシャル、木村早智
		シーンスタディ	鈴木ひがし、豊田めぐみ、古城十忍、ローナ・マーシャル、黒岩亮
		日本舞踊	花柳千代、花柳千慶
		所作	樋田慶子
		歌唱と演技	伊藤和美
		バレエ・ダンス	河野有紀子
		アクション	渥美博、亀山ゆうみ
		ボディ・コンデショニング	橋本佳子
		アレクサンダー・テクニーク	鎌田かおる
	ムーヴメント	鎌田かおる	
	その他	シーンスタディまとめの会、鈴木裕美WS	
	座学 計29.5回	講義	垣ヶ原美枝、河合祥一郎、田中伸幸
	その他 計23.5回	観劇とディスカッション	
		サロン	三田和代
見学		江戸深川資料館	
合 計			1,266.5回
第8期	実技 計775.5回	声と演技	池内美奈子、ポール・フェリントン、飯原道代
		演技基礎	ローナ・マーシャル、木村早智、高泉淳子、藤野節子
		シーンスタディ	保科耕一
		日本舞踊	花柳千代、花柳千慶
		所作	樋田慶子
		歌唱と演技	伊藤和美
		バレエ・ダンス	河野有紀子
		和楽器	杵屋巳織
		狂言	野村万作、高野和憲、深田博治、
		アクション	渥美博、亀山ゆうみ
ボディ・コンデショニング	橋本佳子		

	アレクサンダー・テクニーク	鍛田かおる	49.5 回
	ムーヴメント	鍛田かおる	40.5 回
座学 計 91 回	講義	西川信廣、田中麻衣子、宮田慶子、栗山民也、垣ヶ原美枝、河合祥一郎、田中伸幸	91 回
その他 計 33.5 回	観劇とディスカッション		22 回
	サロン	修了生、ピーター・マクラミン、三田和代	4.5 回
	オリエンテーション		1 回
	見学	劇場見学 他	6 回
	合 計		900 回

3. 発表会等

(1) 研修公演

- ① 研修公演 朗読劇「ハーメルンの死の舞踏」(9月12～13日、2回、小劇場)
入場料:1,000円 入場者数:302人
- ② 第6期生 試演会①「抱擁家族」(7月20～22日、4回、小劇場)
入場料:A席2,500円 B席1,500円 入場者数:760人
- ③ 第6期生 試演会②「ブルーストッキングの女たち」(12月14～16日、4回、小劇場)
入場料:A席3,000円 B席2,500円 Z席1,500円 高校生以下1,000円 入場者数:676人
- ④ 修了公演「インナーヴォイスー内なる声ー」(2月6～8日、4回、小劇場)
入場料:A席3,000円、B席2,500円、Z席1,500円、高校生以下1,000円、入場者数:666人

4. 募集・選考の状況

演劇研修第9期生12名の募集に対し、125名(女性74名、男性51名)の応募があった。3次にわたる選考の結果、12名(女性6名、男性6名)が合格した。

5. 研修内容・実施方法等の検討

- ・ 所長、副所長、ヘッドコーチ他、講師陣と研修状況を確認する講師会を月1回のペースで開催し、日々の研修に反映させた。
- ・ 広く専門家の意見を傾聴するために、演劇研修所スタジオ・サポート委員会(委員3名;大笹吉雄、河合祥一郎、宮田慶子)を組織し、栗山民也所長、西川信廣副所長らとともに委員会を2回開催し、研修所の運営・方向性について議論を重ねた。

6. その他

- ・ オープンスクールの開催
研修所のカリキュラム内容を広く一般に告知し、俳優養成の必要性への理解促進を図るために、オープンスクールを開催した(8月2日～5日、場所:新国立劇場Dリハーサル室、参加人数:20名)。

3-(2)-④ 実施に当たっての留意事項

1. 広報活動の充実

研修修了生の活動状況を定期的に把握し、また、ホームページやパンフレットに加え、新国立劇

場情報誌「ジ・アトレ」誌上コラム、ブログ、フェイスブックなどの新たな情報発信手段等を通じて研修の様子や研修所公演準備の様子を紹介するとともに、修了生の活動状況などの成果を公表し、また、研修所公演での映像による研修内容の紹介や外部への公演出演を通して研修事業の意義を広く周知した。

2. 文化普及活動等への参画

(オペラ研修)

- ・ 浜離宮ランチタイムコンサート「木村俊光と巡るオペラの旅2」(5月23日、1回、浜離宮朝日ホール)
出演:13期生4名、14期生5名、15期生1名、修了生1名
- ・ ブリティッシュ・ガスの支援によるガラコンサート「NNTT Young Opera Singers Tomorrow」(9月22日、1回、中劇場)
出演:13期生3名、14期生3名、15期生3名、修了生1名
- ・ 浜離宮ランチタイムコンサート「木村俊光と巡るオペラの旅3」(9月26日、1回、浜離宮朝日ホール)
出演:14期生5名、15期生5名、修了生1名
- ・ トウキョウ・モーツァルト・プレイヤーズ オペラ・プロジェクト「コジ・ファン・トゥッテ」(演奏会形式)(12月9日、1回、三鷹市芸術文化センター風のホール)
出演:14期生2名、15期生3名、修了生1名
- ・ 国立新美術館クリスマスオペラコンサート(12月7日、国立新美術館1階ロビー)
出演:オペラ研修所修了生 入場者数:327名 主催:国立新美術館

(バレエ研修)

- ・ 「ブリティッシュ・ガスのタベ」におけるパフォーマンス(10月24日、1回、新宿パークハイアット)
- ・ 子どもたちのレッスン見学会(12月16日、1回、新国立劇場バレエ・リハーサル室)
入場者数:47人

3. 伝統芸能分野と現代舞台芸術分野の相互交流

- ・ 五館合同特別講義、研修生交流会
12月11日(火)14:30~17:30
講義:国立能楽堂大講義室(2階)、交流会:食堂(1階)、施設見学(能舞台・楽屋等)
講師:野村万作(狂言師、第8期能楽(三役)研修 狂言方主任講師)
講義内容:「良き舞台人になるために」
研修生参加者:50名及び受講生1名(歌舞伎俳優9名、竹本1名、長唄2名、太神楽3名、太神楽受講生1名、能楽3名、文楽2名、組踊9名、オペラ5名、バレエ5名、演劇11名)

4. 委員会における検討等(メニューや研修の実施方法等の検討、研修修了生の動向把握)

(オペラ研修)

所長、主任講師、招へい講師等と研修状況を確認する講師会を週1回のペースにて開催し、日々の研修に反映させた。

(バレエ研修)

所長、主任講師他、日本を代表する舞踊界の講師陣と研修状況を確認する講師会を月1回のペースにて開催し、日々の研修に反映させた。

(演劇研修)

所長、副所長、ヘッドコーチ他、講師陣と研修状況を確認する講師会を月1回のペースにて開催し、日々の研修に反映させた。

また、広く専門家の意見を傾聴するために、演劇研修所スタジオ・サポート委員会(委員3名;大笹吉雄、河合祥一郎、宮田慶子)を組織し、栗山民也所長、西川信廣副所長らとともに委員会を2回開催し、研修所の運営・方向性について議論を重ねた。

- ・関連業界、受講者等のニーズの変化を踏まえた取組を行っているか。
- ・関連業界への就職率、資格取得割合、修了後の活動状況等、業務の成果・効果が出ているか。
- ・業務の効率化について、教材作成作業等の効率化、研修施設の有効活用、施設管理業務の民間委託等の取組を行っているか。
- ・受益者負担の妥当性・合理性があるか。

【関連業界、受講者等のニーズの変化を踏まえた取組の状況】

以下の項目を参照。

項目別-168「1. 研修の実施」

項目別-168「2. 24年度の募集等に向けた研修分野・規模についての見直し」

項目別-168~169「3. 実施に当たっての留意事項」

【業務の成果・効果】

以下の項目を参照。

項目別-168「1. 研修の実施」

項目別-168~169「3. 実施に当たっての留意事項」

(参考)

○研修修了生の就業状況

(25年4月末現在)(単位:人)

区分	研修修了生総数(A)	研修修了生の内訳				定着率(B)/(A)	備考
		就業者			転業者等		
		合計(B)	現在従事している者	現在従事していない者			
オペラ	62	62	62	0	0	100%	第1期~12期
バレエ	53	53	53	0	0	100%	第1期~7期
演劇	82	81	81	0	1	99%	第1期~5期
合計	197	196	196	0	1	99%	

※「就業者」のうち「現在従事していない者」は、10年以上伝承者として従事した後に転業等をした者。

※「転業者等」は10年未満伝承者として従事した後に転業等をした者。

○現代舞台芸術の実演家の研修における研修修了生の動向

(単位:人)(25年4月末現在)

(1)オペラ研修(研修期間:3年間)

区 分	修了生総数	文化庁在外研修員	新国立劇場公演出演
第1期生	4	4	4
第2期生	4	4	3
第3期生	5	3	3
第4期生	5	5	5
第5期生	5	3	5
第6期生	5	5	1
第7期生	5	2	1
第8期生	5	3	1
第9期生	5	2	1
第10期生	5	4	4
第11期生	5	3	0
第12期生	5	4	0
第13期生	4	4	0
合 計	62	46	28

(2)バレエ研修(研修期間:2年間)

区 分	修了生総数	文化庁在外研修員	2011/2012 シーズン 新国立劇場バレエ団所属	
			ソリスト	コール・ド
第1期生	7	1	2	0
第2期生	8	2	3	1
第3期生	8	0	1	5
第4期生	6	0	0	4
第5期生	6	0	0	4
第6期生	6	0	0	3
第7期生	6	0	0	3
第8期生	6	0		
合 計	53	3	6	20

※第8期修了生の新国立劇場バレエ団所属は来シーズンからであり4月1日時点では未所属。

(3)演劇研修(研修期間:3年間)

区 分	修了生総数	文化庁在外研修員	新国立劇場公演出演
第1期生	15	0	15
第2期生	14	0	8
第3期生	14	0	7
第4期生	14	0	11
第5期生	11	0	4
第6期生	14	0	0
合 計	82	0	45

【業務の効率化についての取組状況】

以下の項目を参照。

項目別－168「2. 24年度の募集等に向けた研修分野・規模についての見直し」

項目別－168～169「3. 実施に当たっての留意事項」(4)

【受益者負担の妥当性・合理性】

以下の項目を参照。

項目別－168「1. 研修の実施」

項目別－168～169「3. 実施に当たっての留意事項」(1)(2)

(参考)

○新人研修生1人当たりの養成・研修に係る経費(24年度) (単位:人・千円)

種別	人数	決算額	1人当たりの年間経費
オペラ	14	71,124	5,080
バレエ	17	34,890	2,052
演劇	38	62,177	1,636
合計・平均	69	168,191	2,438

<p>【(中項目)1-4】</p>	<p>4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の充実に資するとともに、その理解の促進を図るため、調査研究を実施すること。 また、その成果を研究者や国民一般に提供するとともに、計画的な資料収集を行うこと。なお、事業の実施にあたっては次に掲げる事項に留意すること。</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>					
		H20	H21	H22	H23		
		A	A	A	A		
<p>【(小項目)1-4-1】</p>	<p>伝統芸能関係</p>	<p>【評定】</p> <p style="text-align: center;">A</p>					
		H20	H21	H22	H23		
		A	A	A	A		
<p>【法人の達成すべき計画】</p> <p>4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 [伝統芸能関係]</p> <p>伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演等の充実に資するとともに、その成果を研究者や国民一般に提供し伝統芸能及び現代舞台芸術の理解の促進を図るため、伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究、資料の収集及び活用を行う。</p> <p>実施にあたっては、所期の目的を達成したものから見直しを行い、振興会ならではの特性あるものに重点化を図る観点から計画的に実施するとともに、成果についてインターネットでの公開など多様な方法を用いて広く一般に普及を図る。</p> <p>また、一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させる。</p> <p>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用</p> <p>ア 上演の途絶えた演目又は場面などの台本研究等を実施するとともに、自主公演の実施に際し、上演・演目・台本・場面・演出・演技等に関する過去の記録等を調査した上演資料集を作成し、上演内容への理解促進等に活用する。</p> <p>イ 近代における日本各地の歌舞伎を主とした演劇興行に関する記録を調査し、「近代歌舞伎年表」を作成し、再演等に活用する。また、昭和以降に上演された文楽の年表の刊行に向けた準備を行う。</p> <p>ウ 国立劇場で上演する伝統芸能に関し、古文献の復刻、意識及び実態に関する調査統計資料の作成等を実施し、公演の充実に活用する。また、伝統芸能への理解の促進に資するための書籍等を刊行する。</p> <p>エ 組踊等沖縄伝統芸能に関し、「沖縄芸能史年表」を作成し、再演等に活用する。</p> <p>オ 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料、主催公演の上演情報等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。</p> <p>また、収集した図書及び資料等により、芸能資料に関する目録・図録等の作成、他の博物館施設等への貸与等を行う。</p> <p>カ デジタル技術により、収集した資料のデータベース化や収集した資料等を活用したデジタルコンテンツの充実など、文化デジタルライブラリー等の整備を行い、インターネットにより公開する。</p> <p>キ 収集した資料等を各劇場施設の目的に沿って次のとおり展示公開する。展示公開にあたっては、一般公開施設について来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図り、資料展示室の来場者数については、前中期目標期間の実績以上とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統芸能情報館資料展示室 年3企画程度 ・演芸資料館資料展示室 年3企画程度 ・能楽堂資料展示室 年4企画程度 ・文楽劇場資料展示室 年5企画程度 ・国立劇場おきなわ資料展示室 年4企画程度 <p>(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <p>ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する。</p>		<p>実績報告書等 参照箇所</p>					
		<p>業務実績報告書 194頁～215頁</p>					
			H20	H21	H22	H23	評定
		伝統芸能の調査研究	S	S	S	S	A
		伝統芸能の資料の収集・活用	A	A	A	A	A
		公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	A	A	A	A

イ 公演記録映像については、鑑賞会等を開催するとともに、必要な著作権処理を行った上で、劇場上映やインターネット配信、販売等の一層の有効活用を図る。

ウ 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開の講座、鑑賞会等を実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行い、前中期目標期間の実績以上の参加者数を確保するとともに、適宜、参加者へのアンケート調査を行い、平均して回答者の80%以上から有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。また、公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施する。

【インプット指標】

(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
伝統芸能の調査研究 決算額(百万円)	203	194	198	203	209
伝統芸能の調査研究 従事人員数(人)	18	16	15	13	15
伝統芸能の資料の収集・活用 決算額(百万円)	251	225	226	232	160
伝統芸能の資料の収集・活用 従事人員数(人)	17	16	16	14	13
公演記録の作成・活用、普及活動の実施 決算額(百万円)	294	259	270	287	278
公演記録の作成・活用、普及活動の実施 従事人員数(人)	33	30	29	25	26

○伝統芸能の調査研究

1) 決算額は、

- ・振興会：芸能記録作成費、近代歌舞伎年代記編纂事業費
- ・おきなわ財団：芸能記録作成費(財団委託費)を計上している。

2) 従事人員数は、各館の調査研究等担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。

(本館調査記録課、能楽堂事業推進課調査資料係、文楽劇場事業推進課調査資料係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)

その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

○伝統芸能の資料の収集・活用

1) 決算額は、

- ・振興会：文化デジタルライブラリー構築事業費、資料収集活用費
- ・おきなわ財団：資料収集活用費(財団委託費)を計上している。

2) 従事人員数は、各館の調査研究等担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。

(本館資料サービス課、能楽堂事業推進課調査資料係、文楽劇場事業推進課調査資料係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立

劇場おきなわ係)
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。
 ○公演記録の作成・活用、普及活動の実施
 1)決算額は、
 ・振興会:芸能記録作成費、資料収集活用費
 ・おきなわ財団:芸能記録作成費(財団委託費)、資料収集活用費(財団委託費)を計上している。
 2)従事人員数は、各館の調査研究等担当常勤職員及び国立劇場おきなわ業務管理職員の人数を計上している。
 (本館調査記録課・資料サービス課、能楽堂事業推進課調査資料係、文楽劇場事業推進課調査資料係、新国立劇場・おきなわ部管理課国立劇場おきなわ係)
 その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価								
<p>4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 中期計画に基づき、次のとおり調査研究並びに資料の収集及び活用を実施し、公演等の充実に資するとともに、その成果を研究者や国民一般に提供したか。また、実施にあたっては、外部専門家等との連携を図ったか。</p> <p>(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ア 公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を、演目内容に応じておおむね以下のとおり作成し、上演内容への理解促進等に活用したか。 ・ 歌舞伎 8 冊 ・ 文楽 5 冊 ・ 組踊等沖縄伝統芸能 3 冊 イ 日本各地の歌舞伎を主とした演劇興行に関する記録の調査研究を以下のとおり行い、再演等に活用したか。 ・ 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第七巻の刊行及び第八巻の刊行準備(平成 25 年度刊行予定) ・ 「近代歌舞伎年表」に関する劇界記事 120 件程度の原稿化、興行カード 800 件程度の作</p>	<p>(1) 上演資料集の刊行</p> <p>1. 刊行実績</p> <table border="1" data-bbox="593 542 1724 1045"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歌舞伎 刊行 8 冊 (計画 8 冊)</td> <td>4 月公演「絵本合法衛」(No.556) 6 月鑑賞教室「平家女護島 俊寛」(No.558) 7 月鑑賞教室「毛抜」(No.559) 10 月公演「塩原多助一代記」(No.561) 11 月公演「浮世柄比翼稲妻」(No.562) 12 月公演「鬼一法眼三略巻」(No.563) 1 月公演「夢市男達競」(No.566) 3 月公演「隅田川花御所染」(No.568)</td> </tr> <tr> <td>文楽 刊行 5 冊 (計画 5 冊)</td> <td>5 月公演「八陣守護城・契情倭莊子・傾城反魂香・艶容女舞衣・壇浦兜軍記」(No.557) 9 月公演「糸仙人吉野花王・夏祭浪花鑑・傾城阿波の鳴門・冥途の飛脚」(No.560) 12 月鑑賞教室「靱猿・恋女房染分手綱」(No.564) 12 月公演「苺萱桑門筑紫轢・傾城恋飛脚」(No.565) 2 月公演「摂州台邦辻・小鍛冶・曲輪ぶんしょう・関取千両轢・妹背山婦女庭訓」(No.567)</td> </tr> <tr> <td>組踊 刊行 3 冊 (計画 3 冊)</td> <td>8 月定期公演 組踊「姉妹敵討」(No.27) 10 月定期公演 組踊「巡見官」(No.28) 2 月定期公演 組踊「矢蔵之比屋」(No.29)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 配付実績</p> <p>(1) 歌舞伎・文楽 出演者及び公演スタッフ 150 件、研究者等 70 件、研究機関等 50 件</p> <p>(2) 組踊 第 27 集 出演者及び公演スタッフ:86 件、研究者等 27 件、研究機関等 69 件 第 28 集 出演者及び公演スタッフ:75 件、研究者等 20 件、研究機関等 68 件 第 29 集 出演者及び公演スタッフ:74 件、研究者等 26 件、研究機関等 66 件</p> <p>3. 外部専門家等の意見及びアンケート調査</p> <p>(1) 外部専門家等の意見 ・ 個々の演目に関する貴重な参考資料で、大変意義がある。今後も継続して出版してほしい。</p> <p>(2) アンケート調査</p>	区分	内容	歌舞伎 刊行 8 冊 (計画 8 冊)	4 月公演「絵本合法衛」(No.556) 6 月鑑賞教室「平家女護島 俊寛」(No.558) 7 月鑑賞教室「毛抜」(No.559) 10 月公演「塩原多助一代記」(No.561) 11 月公演「浮世柄比翼稲妻」(No.562) 12 月公演「鬼一法眼三略巻」(No.563) 1 月公演「夢市男達競」(No.566) 3 月公演「隅田川花御所染」(No.568)	文楽 刊行 5 冊 (計画 5 冊)	5 月公演「八陣守護城・契情倭莊子・傾城反魂香・艶容女舞衣・壇浦兜軍記」(No.557) 9 月公演「糸仙人吉野花王・夏祭浪花鑑・傾城阿波の鳴門・冥途の飛脚」(No.560) 12 月鑑賞教室「靱猿・恋女房染分手綱」(No.564) 12 月公演「苺萱桑門筑紫轢・傾城恋飛脚」(No.565) 2 月公演「摂州台邦辻・小鍛冶・曲輪ぶんしょう・関取千両轢・妹背山婦女庭訓」(No.567)	組踊 刊行 3 冊 (計画 3 冊)	8 月定期公演 組踊「姉妹敵討」(No.27) 10 月定期公演 組踊「巡見官」(No.28) 2 月定期公演 組踊「矢蔵之比屋」(No.29)	<p>・ 伝統芸能に係る調査研究、資料の収集活用、公演記録の作成・活用、普及活動については、着実に実施され、その成果が確実な蓄積となっていることは評価できる。</p> <p>【伝統芸能の調査研究】 ・ 伝統芸能の分野では、「近代歌舞伎年表」「義太夫年表」の刊行などを昨年度から引き続き行っており、高い成果を上げている。特に、「近代歌舞伎年表名古屋編第 7 巻」の刊行の意義は大きい。</p> <p>・ 国立劇場の歌舞伎、文楽、組踊公演時に、上演資料集を 16 冊刊行した。</p> <p>・ また、「沖縄芸能史年表」、古文献の復活、上演資料の収集も成果を挙げている。</p> <p>・ 目標は達成しており、これまでの継続性と蓄積は評価できるが、ルーティン化している感がある。</p>
区分	内容									
歌舞伎 刊行 8 冊 (計画 8 冊)	4 月公演「絵本合法衛」(No.556) 6 月鑑賞教室「平家女護島 俊寛」(No.558) 7 月鑑賞教室「毛抜」(No.559) 10 月公演「塩原多助一代記」(No.561) 11 月公演「浮世柄比翼稲妻」(No.562) 12 月公演「鬼一法眼三略巻」(No.563) 1 月公演「夢市男達競」(No.566) 3 月公演「隅田川花御所染」(No.568)									
文楽 刊行 5 冊 (計画 5 冊)	5 月公演「八陣守護城・契情倭莊子・傾城反魂香・艶容女舞衣・壇浦兜軍記」(No.557) 9 月公演「糸仙人吉野花王・夏祭浪花鑑・傾城阿波の鳴門・冥途の飛脚」(No.560) 12 月鑑賞教室「靱猿・恋女房染分手綱」(No.564) 12 月公演「苺萱桑門筑紫轢・傾城恋飛脚」(No.565) 2 月公演「摂州台邦辻・小鍛冶・曲輪ぶんしょう・関取千両轢・妹背山婦女庭訓」(No.567)									
組踊 刊行 3 冊 (計画 3 冊)	8 月定期公演 組踊「姉妹敵討」(No.27) 10 月定期公演 組踊「巡見官」(No.28) 2 月定期公演 組踊「矢蔵之比屋」(No.29)									

<p>成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「義太夫年表 昭和篇」第二巻の刊行準備及び第三巻の刊行に向けた資料収集を行ったか。 <p>ウ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、以下のとおり復刻・刊行等を行い、公演の充実等に活用したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎資料選書第十二巻の刊行 ・未翻刻戯曲集第十九巻の刊行 ・正本写合巻集(2冊)の刊行 ・国立能楽堂調査研究(7)の刊行 ・英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」の刊行 ・観世文庫展報告書の刊行 <p>エ 御冠船の時代から現代に至るまでの沖縄伝統芸能の上演等の記録を調査整理し、「沖縄芸能史年表」第9集を作成し、再演等に活用したか。</p> <p>オ 伝統芸能に関する図書及び資料等について、各館の収集方針の下、適宜適切に収集、分類整理し、閲覧に供したか。図書については、開架図書を充実させるとともに、ホームページで蔵書検索サービスを提供し、一般の利用の促進に努めたか。</p> <p>また、収集した資料等を活用し、以下のとおり刊行を行うとともに、博物館施設等の求めに応じ、収集した資料を貸与し、伝統芸能に対する理解の促進に努めたか。</p> <p>① 各館の収集方針</p> <p>a. 本館・演芸資料館</p> <p>伝統芸能全般の基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料等を収集、公開したか。主として歌舞伎と大衆</p>	<p>研究者・関係機関等に対し、刊行物発送時にアンケート用紙を添付して調査を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎 No.563 :回答者数 52 人(配布数 106 人、回答率 49.1%) 98.1%の回答者から満足との回答を得た(51 人)。 ・文楽 No.564～565 :回答者数 59 人(配布数 93 人、回答率 63.4%) 94.9%の回答者から満足との回答を得た(56 人)。 ・組踊 No.27～29 :回答者数 12 人(配布数 227 人、回収率 5.2%) 83.3%の回答者から概ね満足との回答を得た(10 人)。 <p>(2)「近代歌舞伎年表」「義太夫年表」の刊行</p> <p>1. 刊行:「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第七巻(25年3月)</p> <p>刊行準備:「近代歌舞伎年表 名古屋篇」第八巻 資料の収集、データ整理、原稿の一部作成を行った。</p> <p>「義太夫年表 昭和篇」第二巻につき、約 360 件の資料を新たに調査した。さらに第二巻の編集に着手した。</p> <p>調査作業:「近代歌舞伎年表 名古屋篇」作成のための劇界記事の作成:158 件(計画 120 件)、興行カード作成:1,003 件(計画 800 件)</p> <p>「義太夫年表 昭和篇」第三巻以降の資料調査</p> <p>2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査</p> <p>(1)外部専門家等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「近代歌舞伎年表」は歌舞伎等演劇についての基礎的文献として貴重であり、国立劇場ならではの地道な作業の集積である。 ・研究者にとって有益で、明治期の名古屋の演劇興行の実態が明らかになった。 <p>(2)アンケート調査</p> <p>回答者数 49 人(配布数 103 人、回答率 47.6%)、89.8%の回答者から満足との回答を得た(44 人)。</p> <p>(3) 古文献の復刻等</p> <p>1. 刊行:「芝居見たまま 明治篇」第一巻<歌舞伎資料選書・12>(25年2月)</p> <p>「エノケン喜劇のドラマツルギー-榎本健一と菊谷栄が見た夢-」<演芸資料選書・10>(25年3月)</p> <p>「小幡怪異雨古沼」<未翻刻戯曲集・19>(25年3月)</p> <p>「糸廻時雨越路一調」<正本写合巻集・10>(24年11月)</p> <p>「怪談木幡小平次・小幡怪異雨古沼」<正本写合巻集・11>(25年3月)</p> <p>2. 刊行準備:「芝居見たまま 明治篇」第二巻の文献調査</p> <p>「未翻刻戯曲集・20」の古文献調査</p> <p>「正本写合巻集」2冊の古文献調査及び原稿準備</p> <p>(4)「沖縄芸能史年表」等の刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「琉球・沖縄芸能史年表 第9集(戦後篇4)上・下」(1978年1月1日～1982年12月31日)を刊 	<p>【伝統芸能の調査研究資料の収集・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化デジタルライブラリーのホームページへのアクセス件数は、計画に対し+113,000 件強(達成度 131.5%)を達成している。 ・展示公開も計画どおり実施され、参加者数は達成度 118.1%となっている。 <p>【公演記録の作成・活用、普及活動の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書、資料等のデータベース化に関しては、図書、資料、公演記録情報のいずれにおいても計画どおり実施された。 ・講座等も計画通り実施され、参加者数は達成度 108.2%、参加者の満足度は 89.2%であり、評価できる。
---	--	---

芸能に関する新旧の一般書、基本的な研究書を中心に収集したか。歌舞伎については、錦絵(役者絵)、番付、プロマイド写真、上演台本を、大衆芸能については、落語、講談の速記本、見世物、曲芸等の絵画資料(錦絵)、映像・音声資料(ビデオ・CD)等の収集を行ったか。

b. 能楽堂

伝統芸能全般の基本的な新旧の図書、雑誌、博物資料等を収集、公開したか。主として能楽に関する研究書、実演資料、図録、一般図書等の芸能図書の収集を行うとともに、能楽の研究上、意義があると認められる芸能資料の収集を行ったか。

c. 文楽劇場

伝統芸能全般の基本的な新旧の図書、資料を収集、公開したか。主として人形浄瑠璃、義太夫節に関する新旧の一般書、基本的な研究書を中心に、人形浄瑠璃興行関連資料(番付等)、演者関連資料、義太夫丸本、義太夫段物集、舞台関係絵画資料(錦絵・絵番付を含む)等の収集を行ったか。

d. 国立劇場おきなわ

組踊に関する新旧の台本、一般書、研究書、過去の主な公演パンフレット、組踊衣裳、小道具などを主とし、琉球舞踊、沖縄芝居、民俗芸能等の台本、一般書、研究書、パンフレット等

行した。

(5) 資料の収集・分類整理、閲覧

区分	収集	閲覧
図書の収集・活用	伝統芸能情報館 収集図書:3,518冊 単行本404冊、逐次刊行物1,357冊、 筋書等1,757冊	閲覧室利用者数:3,773人 図書閲覧者数:436人(2,331冊) 開室日数:256日
	能楽堂 収集図書:639冊 単行本等110冊、逐次刊行物292冊 番組等237冊	閲覧室利用者数:3,931人 図書閲覧者数:1,028人(2,284冊) 開室日数:252日
	文楽劇場 収集図書:672冊 単行本134冊、逐次刊行物141冊、 筋書等397冊	閲覧室利用者数:1,137人 普及コーナー利用者数:11,921人 図書閲覧者数:657人(2,577冊) 開室日数:246日
	国立劇場おきなわ 収集図書:368冊 単行本48冊、逐次刊行物257冊、 筋書等63冊	レファレンスルーム利用者数:1,630人 図書閲覧者数:1,063人(323冊) 開室日数:172日
資料の収集・活用	伝統芸能情報館 収集資料:1,419点 レコード・CD11点、公演記録等資料682 点、その他737点	特別閲覧件数:2件(59点) 特別貸出件数:108件(779点) 映像音声資料閲覧件数:1,023件(2,312時間) 写真複製使用件数:310件(1,443点)
	能楽堂 収集資料:6,945点 公演記録資料(ビデオ等624点、写真6,277点)、 その他44点	特別閲覧件数:12件(163点) 特別貸出件数:4件(69点) 映像資料閲覧件数:2,065件(3,365時間) 写真複製使用件数:77件(325点)
	文楽劇場 収集資料:1,288点 公演記録等資料26点、視聴覚資料1,185点、そ の他77点	映像音声資料閲覧件数:598件(146時間) 写真複製使用件数14件(30点)
	国立劇場おきなわ 収集資料:612点 公演記録等資料339点 視聴覚資料273点 組踊等衣装2点	映像音声資料閲覧件数:1,033件(1,067時間) 写真複製使用件数:5件(12点)

2. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1)外部専門家等の意見

なし

(2)アンケート調査

- ・ 伝統芸能資料館図書閲覧室において、25年2月10日～3月25日に実施。

回答者数71人(満足数56、やや満足12、普通2、無回答1)。回答者の95.8%が概ね満足と答えた(68人)。

- ・ 能楽堂図書閲覧室において、10月4日～10月30日に実施

回答数90人(配布数100人、回収率90%)回答者の87%が概ね満足、と答えた(87人)。

- ・ 国立劇場おきなわレファレンスルームにおいて、アンケート用紙を設置。

回答者数8人、(満足数6、不満1、無回答1)回答者の75.0%が概ね満足と答えた。

【特記事項】

の寄贈等による収集を行ったか。沖縄の伝統芸能と深い関わりのある日本の芸能（能楽、歌舞伎、文楽等）やアジア太平洋地域の芸能関係の図書・博物資料も収集したか。

- ② 資料を活用した刊行
- ・ 特別展示図録の刊行（能楽堂）

カ 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの作成など、文化デジタルライブラリー等の整備を行い、伝統芸能情報館及びインターネットにおいて一般の利用に供したか。

- ① 図書、資料及び公演記録等に関する情報のデータベース化を以下のとおり進めたか。

- ・ 図書：8,500 件程度（本館：筋書等）
- ・ 錦絵：150 点
- ・ ブロマイド：250 点
- ・ 公演記録情報：上演情報 100 公演、公演記録写真 23,000 点、扮装図鑑 7 公演

- ② 収集した図書資料等を活用し、デジタル技術によるコンテンツを次のとおり作成したか。

- ・ 文化デジタルライブラリー 舞台芸術教材「琉球芸能編」
- ・ 舞台芸術教材「大衆芸能編」
- ・ 伝統芸能情報館展示 映像コンテンツ「文楽の魅力」

- ③ 文化デジタルライブラリーホームページへの目標アクセス件数：360,000 件

キ 収集した資料等を適切に保管

- ・ 伝統芸能情報館の図書閲覧室及び本館視聴室は、引き続き、第 2 日曜日の開室と第 3 水曜日の開室時間の延長（20:00 まで）を行った。
- ・ 3 月 11 日は大劇場で「東日本大震災二周年追悼式」が行われたため、伝統芸能情報館の図書閲覧室及び本館視聴室を休室した。

(6) 資料を活用した刊行

- ・ 特別展「加賀の能楽名品展」展示図録（24 年 9 月）
- ・ 英文演目解説「The Guide to Noh of the National Noh Theatre —2」（25 年 3 月）
- ・ 「国立能楽堂調査研究 7」（25 年 3 月）
- ・ 企画展「『観世文庫展』報告書」（25 年 3 月）

(7) 文化デジタルライブラリー等の整備と公開

1. 実績

(1) データベース化

事項	実施内容
図書	逐次刊行物等 8,500 件（計画：8,500 件程度） 本館所蔵の他劇場の公演筋書 6,999 件、能楽堂所蔵の公演筋書 29 件、逐次刊行物 869 件、台本 153 件、図書 450 件を、図書管理システム及び国立情報学研究所のデータベースに登録した。
資料	錦絵 150 点（計画：150 点） ブロマイド 278 点（計画：150 点） 「芝居版画等図録第 14 巻」に掲載の錦絵 150 点と、新たに考証・整理が終了したブロマイド写真（戦前の歌舞伎俳優）278 点を、文化デジタルライブラリーに追加登録した。
上演情報	176 公演（計画：100 公演） 歌舞伎 12 公演、文楽 18 公演、舞踊・邦楽 14 公演、雅楽・声明 3 公演、民俗芸能 3 公演、特別企画 2 公演、能・狂言 65 公演、大衆芸能 59 公演の公演情報を、文化デジタルライブラリーに登録した。
公演記録写真	31,375 点（計画：23,000 点） 国立劇場で 22 年 6 月から 23 年 11 月までに撮影した全ジャンル公演の公演記録写真 27,322 点、国立劇場で昭和 41 年 12 月から平成 13 年 6 月までに撮影された民俗芸能公演の公演記録写真 4,053 点を文化デジタルライブラリーに登録した。
扮装図鑑	8 公演（計画：7 公演） 国立劇場で 23 年 10 月から 24 年 6 月までに上演された歌舞伎公演（鑑賞教室を含む）2 公演と、20 年 2 月から 21 年 2 月までに上演された文楽公演（鑑賞教室を含む）6 公演の「扮装図鑑」を、文化デジタルライブラリーに登録した。

(2) デジタルコンテンツの作成

- ・ 収集した図書・資料等の活用として、デジタル技術により、教育・普及を目的とした舞台芸術教材コンテンツを次のとおり作成し、25 年 4 月よりインターネットで配信した。
 - ・ 舞台芸術教材「琉球芸能編 組踊」
 - ・ 舞台芸術教材「大衆芸能編 寄席」

(3) 上映用コンテンツの作成

- ・ 22 年度に伝統芸能情報館 1 階の大型テレビ（85 インチ）を更新したことに伴い、フルハイビジョンによる上映用コンテンツを計画的に作成し、公開した。
 - ・ 映像コンテンツ「文楽を味わう」

(4) 文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス件数

するとともに、各劇場施設の目的に沿って平成 24 年度年度計画[別表 5]のとおり展示公開したか。展示公開に当たっては、展示目録等を作成するとともに、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図ったか。

[平成 24 年度年度計画別表 5 の概要]

展示に関する計画(目標来場者数)
 ・伝統芸能情報館資料展示室(43,400 人)
 ・演芸場資料展示室(30,960 人)
 ・能楽堂資料展示室(24,210 人)
 ・文楽劇場資料展示室(63,800 人)
 ・国立劇場おきなわ資料展示室(12,000 人)

(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成し、閲覧・視聴に供したか。引き続き、磁気テープで保存されている公演記録映像のデジタルデータへの変換を行ったか。また、本館での公演記録映像の視聴に際しては、デジタル媒体による提供を行い、より質の高いサービスを目指したか。また、新国立劇場では、過去の上演作品及び関連情報について、必要な著作権等の処理を行った上で閲覧・視聴に供したか。

イ 公演記録映像について、鑑賞会を開催し、講座・レクチャー等で活用するとともに、必要な著作権処理を行った上で、外部制作会社等と連携して、DVD を作成する等の有効活用を図ったか。

ウ 講座等の実施

① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開の講座、公

473,258 件(計画:360,000 件)

2. 外部専門家等の意見

- ・コンテンツが充実してきた。若い世代には重要になってくるので、理解しやすい内容も考えた方が良いとの意見があった。

(8) 展示公開

1. 展示公開の実績(実施 21 回・計画 21 回)

展示室	企画内容	期間	開催日数	来場者数	
				実績	目標
伝統 芸能 情報館	企画展示「琉球王朝の華「組踊と琉球舞踊」	4/1~5/28	58 日間	6,939 人	7,700 人
	企画展示「歌舞伎入門—菅原伝授手習鑑の世界—」	6/2~9/24	114 日間	18,794 人	15,900 人
	企画展示「曾我物歌舞伎」「黙阿弥の仕事」	10/5~1/27	110 日間	13,402 人	13,000 人
	企画展示「長谷川昇」「歌舞伎絵・文楽人形絵」「黙阿弥の仕事」	2/9~3/27	46 日間	7,227 人	6,800 人
	合 計	4 回	328 日間	46,362 人	43,400 人
演芸場 資料 展示室	演芸資料展「芝居噺と噺家芝居」	4/1~7/20	94 日間	14,324 人	10,960 人
	演芸資料展「曲独楽の世界」	8/1~11/25	98 日間	14,612 人	12,300 人
	演芸資料展「収蔵資料展」	1/2~3/24	61 日間	9,931 人	7,700 人
	合 計	3 回	253 日間	38,867 人	30,960 人
能楽堂 資料 展示室	企画展「観世文庫展」	4/11~4/29	17 日間	2,861 人	1,700 人
	入門展「能楽入門」	5/24~8/11	70 日間	8,732 人	7,590 人
	特別展「加賀の能楽名品展」	9/21~11/21	54 日間	9,017 人	8,100 人
	収蔵資料展(野上記念法政大学能楽研究所設立 60 周年記念) 前期	12/12~1/31	37 日間	3,464 人	3,960 人
	収蔵資料展(野上記念法政大学能楽研究所設立 60 周年記念) 後期	2/20~3/20	26 日間	4,157 人	2,860 人
	合 計	5 回	204 日間	28,231 人	24,210 人
文楽 劇場 資料 展示室	企画展示「昭和初期の文楽」・一文楽入門—	4/7~5/20	44 日間	12,863 人	11,800 人
	「文楽入門Ⅰ」・「曾根崎心中 元禄と現代」	6/8~8/12	65 日間	30,117 人	17,800 人
	「文楽入門Ⅱ」・「萬福寺の魅力」	9/1~10/21	51 日間	5,114 人	4,600 人
	企画展示「忠臣蔵資料展」・一文楽入門—	11/3~12/2	30 日間	12,018 人	11,600 人
	「文楽入門Ⅲ」・「初春文楽公演の演目にちなんで」	1/3~3/20	77 日間	21,029 人	18,000 人
	合 計	5 回	267 日間	81,141 人	63,800 人
国立 劇場 おきな わ 資料 展示室	企画展「琉球歌劇への誘い~伊江島ハンドー小~」	4/14~6/24	72 日間	2,533 人	3,096 人
	企画展「紅型 ~組踊・琉球舞踊の衣裳~」	7/14~9/23	72 日間	1,937 人	3,096 人
	企画展「踊衣裳の美—名匠展—」	10/6~12/16	72 日間	3,629 人	3,096 人
	企画展「収蔵資料展」	1/12~3/17	65 日間	3,149 人	2,712 人
	合 計	4 回	281 日間	11,248 人	12,000 人

<p>演記録映像の鑑賞会等を平成 24 年度年度計画[別表 6]のとおり実施したか。また、広報活動を十分に行うとともに、参加者に適宜アンケート調査を実施し、回答者の 80%以上から有意義であったと回答されるよう内容等の充実に努めたか。</p> <p>② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開したか。</p> <p>③ 教職員の伝統芸能への理解を深め、教育を受ける児童・生徒に対して伝統芸能の普及促進を図る観点から、教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の認定を受けて実施したか。</p> <p>エ 組踊紹介パンフレットの配布及び組踊解説 DVD の貸出しを行い、組踊への理解を促進し、より一層の普及を図ったか。</p> <p>[平成 24 年度年度計画別表 6 の概要] 鑑賞会・講座等に関する計画 ・伝統芸能サロン等(伝統芸能情報館レクチャー室)18 回 ・能楽堂鑑賞講座等(能楽堂大講義室)14 回 ・公演記録鑑賞会(文楽劇場小ホール)12 回 ・公演記録鑑賞会等(国立劇場おきなわ小劇場等)4 回</p>	<p style="text-align: center;">総 計</p> <p>(伝統芸能情報館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歌舞伎入門―菅原伝授手習鑑の世界―」は、23 年度に開催した企画展示「歌舞伎入門」で取り上げた「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」に続き、義太夫狂言の三大名作の残り「菅原伝授手習鑑」の全段を紹介し、作品で使用される小道具(牛車、牛、俵、鶏、首桶など)や衣裳(直衣)などを展示した。 ・「曾我物歌舞伎」は、江戸時代の歌舞伎のヒーローとして、庶民に絶大な人気を博してきた曾我兄弟を題材にした作品群「曾我物」から「対面」「草摺引」「矢の根」などを、収蔵資料(錦絵、舞台写真など)を使用して紹介した。 ・「長谷川昇「歌舞伎絵・文楽人形絵」展について、洋画家長谷川昇(日本芸術院会員・日展理事)が、歌舞伎、文楽を画題に制作した油彩画 60 点を文化財保護委員会(現 文化庁)に寄贈し、現在は日本芸術文化振興会が借用し、大小劇場ロビー等劇場内各所に常設展示しているが、一般の来場者の目に触れる機会が少ない作品も含めて、前期・後期に分けて展示するもので、前期では 20 点を 3 月 27 日まで展示した。 ・河竹登志夫氏より寄贈を受けた黙阿弥関係資料のうち、「硯」「矢立て」「遺言状」「狂言作者心得」「家督譲状」などを展示ケースや覗きケースで展示し、「黙阿弥の仕事」として「曾我物歌舞伎」から同時開催した。(「長谷川昇「歌舞伎絵・文楽人形絵」展の終了まで継続して展示) <p>(演芸場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「芝居噺と噺家芝居」では、林家正雀の協力により、師匠の林家正蔵(後の林家彦六)の遺品や芝居噺で使用した背景画(仕掛けあり)を展示し、高座で実際に用いられた道具を間近で見ることができるようにしたことで、芝居噺に一層の興味と理解が深まる展示となった。 ・「曲独楽の世界」では、寄贈資料のうち、三増紋也、やなぎ女楽が舞台上で使用していた独楽や道具と、今回初めて十七代松井源水の独楽、テーブル掛け、刀、煙管なども展示した。また、やなぎ南玉が蒐集した日本各地の玩具の独楽も紹介し、実際に高座で使用する曲独楽を手に取り廻すことのできる体験コーナーも併設した。 ・「収蔵資料展」では、各種の演芸を広く取り上げた展示とした。錦絵で講談、番付で浪曲、ピラと錦絵でサーカスや、落語家の書画、奇術師の隈取、腹話術人形などを、また直近に寄贈を受けた「ニューマリオネット」の人形なども展示した。 <p>(能楽堂)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「観世文庫展 阿古屋松」では、特別企画公演「世阿弥自筆本による能-復曲能初演『世阿弥』」と連携して、観世文庫創立 20 周年記念として同文庫所蔵の世阿弥自筆本「阿古屋松」(重要文化財)ほかの貴重な資料を特別協力により展示した。また、展示成果を『「観世文庫展」報告書』として刊行した。 ・特別展「加賀の能楽名品展」では、金沢能楽美術館と共催して交換展示を行い、金沢市尾山神社、加賀市江沼神社の協力も得て、加賀藩前田家・大聖寺藩前田家伝来の能面・能装束を中心とした展示を行った。展示作品はいずれも東京では初公開で、特に悪尉面「泡吹」は尾山神社に秘蔵されている名物面で好評を博した。 ・収蔵資料展では、法政大学能楽研究所設立 60 周年記念として同研究所所蔵の貴重資料を中 	<p>21 回(計画 21 回)</p>	<p>205, 849 人</p>	<p>174, 370 人</p>
---	---	----------------------	-------------------	-------------------

心に展示した。前期「みちのくの能・狂言」では東北諸藩にゆかりのある文献を、後期「能絵鑑と狂言古図」では同研究所と国立能楽堂が所蔵する絵画資料の比較展示を実施した。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 第1回企画展「琉球歌劇への誘い～伊江島ハンドー小～」では、自主公演沖縄芝居の「伊江島ハンドー小」をテーマに取り上げ、琉球歌劇の代表作である本作品の誕生の歴史や見どころを衣裳や小道具、写真等を通して展示した。第2回「紅型～組踊・琉球舞踊の衣裳～」展では、琉球染織の粹である紅型衣裳を琉球舞踊や組踊で用いられる扮装写真とともに紹介した。第3回「踊衣裳の美一名匠展」では、名匠達が制作した「琉球舞踊」や「創作舞踊」に用いられる踊り衣裳を展示紹介した。第4回「収蔵資料展」では、平成16年1月の開場以来、国立劇場おきなわが収集してきた各種沖縄伝統芸能関連の貴重資料の一部を展示公開した。

2. 目録等刊行物の実績

(伝統芸能情報館) 展示目録「琉球王朝の華「組踊と琉球舞踊」「歌舞伎入門—菅原伝授手習鑑の世界—」「曾我物歌舞伎」「黙阿弥の仕事」「長谷川昇「歌舞伎絵・文楽人形絵」

(演芸場) 展示目録「芝居噺と噺家芝居」「曲独楽の世界」「収蔵資料展」

(能楽堂) 特別展「加賀の能楽名品展」展示図録(24年9月)

企画展「『観世文庫展』報告書」(25年3月)

3. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

(1) 外部専門家等の意見

- ・ 伝統芸能情報館については、なお一層の工夫をして増員に努めてほしいとの意見があった。

(2) アンケート調査

(伝統芸能情報館)

- ・ 「琉球王朝の華「組踊と琉球舞踊」(4/1～5/28)期間中に実施。回答数 95 人。回答者の97.9%が概ね満足と答えた(93 人)。
- ・ 「歌舞伎入門—菅原伝授手習鑑の世界—」(6/2～9/24)期間中に実施。回答数 104 人。回答者の95.2%が概ね満足と答えた(99 人)。
- ・ 「曾我物歌舞伎」「黙阿弥の仕事」(10/5～1/27)期間中に実施。回答数 44 人。回答者の88.6%が概ね満足と答えた(39 人)。
- ・ 「長谷川昇「歌舞伎絵・文楽人形絵」」「黙阿弥の仕事」(2/9～3/27)期間中に実施。回答数 57 人。回答者の100%が満足と答えた(57 人)。

(能楽堂)

- ・ 特別展示「加賀の能楽名品展」(9/21～11/21)期間中に実施。回答数 312 人。回答者の82.7%が概ね満足と答えた(258 人)。

(文楽劇場)

- ・ 常設展示「文楽入門Ⅲ」(1/3～3/20)期間中に実施。回答数 163 人。回答者の84.7%が概ね満足と答えた(138 人)。

(国立劇場おきなわ)

- ・ 全展示期間中に実施。回答数 93 人。回答数の79.6%が概ね満足と答えた(74 人)。

【特記事項】

(伝統芸能情報館・演芸場)

- ・「歌舞伎入門―菅原伝授手習鑑の世界―」では来場者が、展示した小道具(俵)に直接触れられるようにして、舞台上で実際に役者が使う小道具の大きさや重さなどが実感でき、より歌舞伎に興味を持てるものとなった。
- ・ 黙阿弥没後 120 年に因んで上演した 25 年初春歌舞伎「夢市男達競」の公演期間中(3 日～27 日)、大劇場ロビー1階に展示ケース1台を特設し、河竹登志夫氏より寄贈を受けた黙阿弥ゆかりの品々(「河竹家表札」「英国製八角時計」など)を展示し、公演終了後はそのまま情報館にそれを移動して展示した。
- ・「曲独楽の世界」では、曲独楽師が実際に舞台上で使用する独楽を来場者が手に取り廻すことができる体験コーナーを設置したことにより、独楽の大きさや重さなどを実感でき、曲独楽がより身近に感じられる展示となった。
- ・ 演芸場 1 月からの「収蔵資料展」では、11 月に寄贈を受けた「ニューマリオネット(糸操り)」が舞台上で使用していた人形を早々に展示、紹介した。
- ・ 3 月 11 日は大劇場で「東日本大震災二周年追悼式」が行われたため、伝統芸能情報館の展示を休室した。
- ・ 千代田区立日比谷図書文化館で開催された「市川團十郎荒事の世界」展(9 月 29 日～11 月 28 日)に、振興会所蔵の錦絵(「歌舞伎十八番錦絵(組物)」「千歳座新舞台仕初図」など)6 点を貸し出し、展示の充実に寄与した。
- ・ サントリー美術館で開催された歌舞伎座開場記念展「歌舞伎 江戸の芝居小屋」(2 月 6 日～3 月 31 日)に、振興会所蔵の錦絵など(「芝居きやうげんの図」「新板浮絵三芝居顔見世大入之図」「東都名所猿若町芝居」「五代目市川團十郎筆 扇子」「同短冊」など)23 点を貸し出し、展示の充実に寄与した。

(能楽堂)

- ・ 企画展「観世文庫展」は、特別企画公演「世阿弥自筆本による能」と連携して開催し、観世文庫創立 20 周年記念として同文庫所蔵の特別協力により、世阿弥自筆本(重要文化財)ほかの貴重な資料を特展示した。また、展示成果を「『観世文庫展』報告書」として刊行した。
- ・ 特別展「加賀の能楽名品展」では、金沢能楽美術館と共催して交換展示を行い、展示図録を作成した。
- ・ 収蔵資料展では、法政大学能楽研究所設立 60 周年記念として同研究所所蔵の貴重資料を展示した。また、展示と連携した特別講座を、前期「みちのくの能・狂言」(1 月)では列品講座として、後期「能絵鑑と狂言古図」(3 月)では「描き伝えた芸能」と題してシンポジウム形式で実施した。

(文楽劇場)

- ・ 文楽劇場では「義太夫年表 昭和編」第一巻の刊行にあわせ、企画展示「昭和初期の文楽」を開催した。

(9) 自主公演の記録の作成

1. 収録実績

区分	記録件数・内容
本館・演芸場	映像・音声・写真 67 公演、扮装図鑑等 8 公演、文楽人形等 5 公演
能楽堂	映像・音声・写真 51 公演

文楽劇場	映像・音声・写真 15 公演、文楽人形等 5 公演
国立劇場おきなわ	映像・音声・写真 30 公演、小道具写真 6 公演

(本館)

- 自主公演等 67 公演について、映像・写真等による記録を作成した。
- 歌舞伎公演(鑑賞教室を含む)では、鬘・衣裳・小道具等の写真による記録を作成(扮装図鑑)し、下座の附帳等を保存した。また、文楽公演(鑑賞教室を含む)では、人形・大道具・小道具等の写真による記録を作成した。

(能楽堂)

- 自主公演 51 公演について映像・写真等による記録を作成した。
- 過去の公演記録映像マスターテープのうち、現在製造が中止された方式のデータ保存方法を検討した。視聴用記録映像の DVCAM 方式が製造中止されているため、DVD 方式への媒体変換作業を継続して行った。

(文楽劇場)

- 自主公演 15 公演について、映像・写真等による記録を作成した。

(国立劇場おきなわ)

- 自主公演 29 公演、若手伝承者発表会1公演について、映像・写真等による記録を作成した。

(10) 公演記録映像の有効活用

1. 公演記録映像・音声の活用

- 複製依頼のあった出演者・演出家等に、公演記録映像・音声を提供した。また、依頼に応じて、出版社・放送局等に複製物を提供した。
- 文楽「冥途の飛脚」(全 2 枚)の DVD を外部制作会社と共同で製作し 25 年 3 月に発売した。
- 能楽堂では、公開講座において講演と併せて公演記録映像を活用した。
- 国立劇場おきなわでは、第 1 回企画展「琉球歌劇への誘い～伊江島ハンドー小～」、第 4 回「収蔵資料展」において、公演記録映像の一部及び寄贈資料映像をデジタル化して展示室内のモニターで上映し、展示資料の参考として紹介した。

2. 活用実績

(1) 視聴(映像資料及び音声資料)利用数総計:4,719 件(7,189 時間)

区分	一般	関係者(出演者等)	合計
本館	663 件(1,806 時間)	347 件(487 時間)	1,010 件(2,293 時間)
能楽堂	1,468 件(2,848 時間)	597 件(817 時間)	2,065 件(3,665 時間)
文楽劇場	19 件(37 時間)	579 件(109 時間)	598 件(146 時間)
国立劇場おきなわ	283 件(192 時間)	750 件(874 時間)	1,033 件(1,066 時間)

(2) 複製(映像資料及び音声資料)

区分	関係者(出演者等)
本館	340 件(754 時間)
能楽堂	198 件(247 時間)
文楽劇場	131 件(303 時間)
国立劇場おきなわ	356 件(124 時間)

※ 複製は出演者等に対してのみ実施。

3. 外部専門家等の意見及びアンケート調査

なし

(11) 鑑賞会・講座等の実施

(1) 伝統芸能に関する理解の促進と普及を図るための講座等

会場	名称	区分	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
伝統芸能 情報館	伝統芸能サロン	実績	6回	615人	90.6%
		計画	6回	540人	
能楽堂	公演記録鑑賞会	実績	12回	1,598人	92.6%
		計画	12回	1,080人	
能楽堂	能楽公開講座	実績	12回	1,723人	90.9%
		計画	12回	1,800人	
能楽堂	能楽特別講座	実績	2回	240人	84.4%
		計画	2回	200人	
文楽劇場	公演記録鑑賞会	実績	12回	1,675人	90.6%
		計画	12回	1,500人	
国立劇場 おきなわ	公演記録鑑賞会	実績	4回	338人	77.8%
		計画	4回	600人	
	沖縄伝統芸能公開講座	実績	4回	136人	79.4%
		計画	4回	112人	
	国立劇場おきなわ県外講演	実績	1回	123人	90.7%
		計画	1回	130人	
合計		実績	53回	6,448人	89.2%
		計画	53回	5,962人	80%以上

(伝統芸能情報館)

- ・ 4月の公演記録鑑賞会は、情報館の展示「琉球王朝の華「組踊と琉球舞踊」」に因み、国立劇場おきなわの公演記録映像から、琉球舞踊6作品と組踊「執心鐘入」を上映した。
- ・ 5月～7月の公演記録鑑賞会は、情報館の展示「歌舞伎入門—菅原伝授手習鑑の世界—」に因み、「菅原伝授手習鑑」を取り上げ、5・7月は歌舞伎、6月は文楽の公演を、3か月連続で「河内国道明寺の場」から「寺子屋の場」まで上映した。
- ・ 8月の公演記録鑑賞会は恒例の納涼公演として演芸の落語を取り上げ、「名流二人会—志ん朝・圓楽—」で、故人の芸を偲ぶ会とした。
- ・ 9月の公演記録鑑賞会は邦楽公演のシリーズ「江戸三味線音楽の歴史」の5回目で「変わりゆく社会 天保の改革～幕末」を上映した。
- ・ 10月の公演記録鑑賞会は23年1月に逝去した歌舞伎俳優の中村富十郎を偲び、「雷神不動北

山桜」を上映した。

- ・ 11月の公演記録鑑賞会は、翌12月に大劇場の歌舞伎公演で上演される「鬼一法眼三略巻」を、事前に文楽での公演をご覧いただき、歌舞伎との違いを楽しんでもらえる会とした。
- ・ 12月の公演記録鑑賞会は22年3月以来、久しぶりに舞踊を取り上げ、人間国宝6名の至芸を上映した。
- ・ 1月の公演記録鑑賞会は東北地方の復興支援として岩手県の民俗芸能から「毛越寺の延年」を上映した。
- ・ 2月・3月の公演記録鑑賞会では、黙阿弥没後120年に因み、黙阿弥作品を取り上げ、2作品を上映した（「天衣紛上野初花」「初霞空住吉—かつぼれ—」）。
- ・ 第34回の伝統芸能サロン（6月16日開催）は、演芸場の展示「芝居噺と噺家芝居」に因み、落語家の林家正雀が「林家彦六の芸と人」の題で、芝居噺を得意とした師匠の林家正蔵（後の林家彦六）の思い出話を話し、最後に一席披露した。（「旅の里扶持」）
- ・ 第35回の伝統芸能サロン（7月28日開催）は、2月に逝去した歌舞伎俳優の中村雀右衛門を偲び、振興会の歌舞伎俳優研修生で弟子の中村京妙が「女方の芸と師匠の思い出」の題で、役柄としての女形について解説し、入門から接してきた師匠の思い出を、国立劇場に出演の記録映像を見ながら語った。
- ・ 第36回の伝統芸能サロン（9月29日開催）は、演芸場の展示「曲独楽の世界」に因み、曲独楽師のやなぎ南玉が「寄席の色物 曲独楽に生きる」の題で、日本における曲独楽の歴史についてスライドを用いて解説し、最後に曲独楽を実演した。
- ・ 第37回の伝統芸能サロン（12月2日開催）は、小劇場の12月文楽公演に因み、国立文楽劇場文楽技術室の村尾愉が「文楽人形 首（かしら）のはなし」の題で、首の製作工程や構造、仕掛けなどについて、管理と補修に従事する立場から解説した。
- ・ 第38回の伝統芸能サロン（1月19日開催）は、正月には獅子舞の風物詩に因み、大阪城天守閣学芸主幹の北川央氏が、「伊勢大神楽の魅力」の題で、関東ではなじみの薄い伊勢大神楽（獅子舞と放下芸（曲芸））を行う。昭和56（1981）年に国の重要無形文化財に指定）の歴史や魅力をスライドなどを用いて解説した。
- ・ 第39回の伝統芸能サロン（2月9日開催）は、梅花女子大学教授の荻田清氏が、「見立番付のおもしろさ」の題で、演芸場の「収蔵資料展」で展示している浪曲技藝士銘鑑（番付）に因み、相撲番付に見立てた様々な番付のおもしろさについてスライドを用いて解説した。

（能楽堂）

- ・ 23年3月24日に東日本大震災の影響により中止した特別講座（講師・大森恵子）を12月7日・1月7日の公開講座として実施した（12月「天狗・山岳信仰と能」・1月「稲荷信仰と能」）。
- ・ 公開講座では、各月の主催公演と連携して12回、能の主題となった文学だけではなく能に影響を与えた音楽や信仰、また能の影響を受けた芸能に至るまで広範囲に紹介した。
- ・ 特別講座では、収蔵資料展と連携して、前期「みちのくの能・狂言」（1月）では列品講座を、後期「能絵鑑と狂言古図」（3月）では「描き伝えた芸能」と題してシンポジウム形式で展示紹介した「狂言古図」等について、能楽史・芸能史・美術史の専門家により分野横断的検証を加える試みを行った。

（文楽劇場）

- ・ 文楽劇場では、「公演記録鑑賞会」を年12回開催した。

（国立劇場おきなわ）

- ・ 国立劇場おきなわでは、国立劇場収録の記録映像も利用して公演記録鑑賞会、沖縄伝統芸能公開講座を各4回開催した。伝統芸能公開講座では、当初4回の合計で112人の参加者を予定したが、136人の参加者があった。
- ・ また、10周年記念プレ事業として、「芸能づくしの1週間！公演記録鑑賞会」(7/16～7/22)の公演記録鑑賞会を小劇場で開催し、開場当時の公演記録映像(13公演)を上映した。

(2) 公演内容に対する理解の促進を図るための講座等

名 称	回数	参加者数
「あぜくらのタベ」(国立演芸場)「円朝と歌舞伎と塩原多助」(8/20)	1回	213人
「あぜくらの集い」(伝統芸能情報館レクチャー室)「四天王寺の聖霊会について」(9/5)	1回	107人
「あぜくらのタベ」(伝統芸能情報館レクチャー室)「吉田一輔を迎えて」(12/1)	1回	123人
あぜくらの集い(伝統芸能情報館レクチャー室)「管絃－巻越調と平調－について」(2/21)	1回	101人
あぜくらの集い(伝統芸能情報館レクチャー室)「復曲素浄瑠璃を聴く会－復曲の現場に立ち会う－」(3/18)	1回	132人
「文楽のつどい」(国立文楽劇場 小ホール)夏休み文楽特別公演第2部「名作劇場のたのしみ」(7/3)	1回	146人
「文楽のつどい」(奈良県吉野町)文楽列車 貸切列車で行く秋の吉野山(10/28)	1回	50人
「文楽のつどい」(国立文楽劇場 食堂)すしやの段となれ寿司(12/18)	1回	74人
「文楽のつどい」(国立文楽劇場 小ホール)お話「心中天網島と大坂の町並み」お話と演奏「今は昔北の新地の情緒」(3/27)	1回	184人
伝統芸能講座(国立文楽劇場 小ホール)「義太夫節SPレコードを聴く会」(11/29)	1回	55人
プレ講座(国立文楽劇場 小ホール)特別企画公演「黄檗宗大本山萬福寺の梵唄」の事前講座「萬福寺の梵唄」(8/23)	1回	144人
研究公演(国立文楽劇場 小ホール)「稀曲を聴く」(8/30)	1回	149人

(3) 教員免許状更新講習

文部科学省の認可を受けて「教員免許状更新講習」を実施した(国立劇場本館、7月21日～24日)。伝統芸能に関心のある現職教員80名を募集し(受講者80名)、体系的に伝統芸能の知識を身につけてもらうため、各種芸能に関する講義・公演見学(歌舞伎鑑賞教室)・舞台見学・邦楽(義太夫節)の実演体験等19時間の講習を開催し、伝統芸能の裾野を広げることができた。

【特記事項】

- ・ 文楽劇場では、中学生の社会体験学習の受入れを行った(11月13日～14日)。7名の中学生が公演見学、ロビーでの接客業務体験を行い、若年層への文楽の普及につながった。

(12) 組踊普及のためのDVDの活用

組踊への理解と普及を図るため、組踊普及映像「組踊の世界へようこそ」と「組踊鑑賞の手引き」の貸出を沖縄県内資料保存機関や市町村の小中学校及び高等学校に行った。
振興会のホームページ・文化デジタルライブラリーで 24 年度に「組踊」が取り上げられることになり、制作のため情報提供及び撮影等の協力を行った。

《数値目標の達成状況》

【図書、資料等のデータベース化】

図書:実績8,500件／計画8,500件程度(達成度100%)

資料(プロマイド):実績278点／計画250点(達成度111.2%)

公演記録情報

上演情報:実績176公演／計画100公演(達成度176.0%)

公演記録写真:実績31,375点／計画23,000点(達成度136.4%)

扮装図鑑:実績8公演／計画7公演(達成度114.3%)

【舞台芸術教材の作成状況】実績2件／計画2件(達成度100.0%)

【文化デジタルライブラリーホームページへのアクセス状況】

年間アクセス件数:473,258件／目標360,000件(達成度131.5%)

【展示公開の実施状況】実績21回／計画21回(達成度100.0%)

【展示公開の参加者数】実績205,849人／計画174,370人(達成度118.1%)

【講座等の実施状況】実績53回／計画53回(達成度100.0%)

【講座等の参加者数】実績6,448人／計画5,962人(達成度108.2%)

【講座等の満足度】実績89.2%／計画80%(達成度111.5%)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

(本館)

- ・ 公演記録情報の登録数が、上演情報と公演記録写真とも目標数より大幅に上回った。
- ・ 「文化デジタルライブラリー」の「舞台芸術教材」に初めてのジャンル「琉球芸能編 組踊」「大衆芸能編 寄席」の2作品を加えることができた。

(能楽堂)

- ・ 企画展では、観世文庫創立20周年記念として同文庫の特別協力により、公演では「世阿弥自筆本による能」の復曲上演を、公演と連携した展示では世阿弥自筆本(重要文化財)ほかの貴重な資料を展示し、また、展示成果を「『観世文庫展』報告書」として刊行した。
- ・ 収蔵資料展では、法政大学能楽研究所との共催で、双方の貴重な収蔵資料によりテーマ性の高い企画展示を行い、さらに紀要と特別講座・シンポジウムにより、分野横断的検証の場を作り、能楽研究の歴史と今後の指針を示す連携事業を行うことができたことは、極めて意義深いものとなった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開講座では、各月の主催公演と連携して毎月1回、能の主題となった文学だけではなく能に影響を与えた音楽や信仰、また能の影響を受けた芸能に至るまで広範囲に紹介した。 ・ 特別講座では、収蔵資料展と連携して、後期「能絵鑑と狂言古図」（3月）では「描き伝えた芸能」と題してシンポジウム形式で、展示紹介した「狂言古図」等について、能楽史・芸能史・美術史の専門家により分野横断的検証を加える試みを行ったが、会場からも貴重な見解が導き出され、今後の能楽研究の新たな指針として大いに注目を集めた。 ・ 収集した能楽資料の公共の博物館などへの外部貸出、また、紀要による収蔵資料の研究紹介により他館の収蔵作品との比較研究が進み、その実績が認められ、他館及び研究施設との協力も広範化し、能楽の振興への寄与が拡大している。 <p>(文楽劇場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「義太夫年表 昭和篇」第二巻の刊行準備及び第三巻の刊行に向けた資料収集を精力的に行った。 <p>(国立劇場おきなわ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回企画展「収蔵資料展」において、昨年寄贈された映像資料の中から40数年前に収録された貴重な記録映像をデジタル化し、展示室内モニターで公開上映した。故人や名優の貴重な記録映像を紹介することは、伝統芸能を理解するため有効な手段であることから、今後も展示の内容に応じ、収集した記録映像等を活用したい。 	
--	--	--

【(小項目)1-4-2】	現代舞台芸術関係	【評定】			
		B			
		H20	H21	H22	H23
		B	B	B	B

【法人の達成すべき計画】 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 [現代舞台芸術関係] 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演等の充実に資するとともに、その成果を研究者や国民一般に提供し伝統芸能及び現代舞台芸術の理解の促進を図るため、伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究、資料の収集及び活用を行う。 実施に当たっては、所期の目的を達成したもから見直しを行い、振興会ならではの特性あるものに重点化を図る観点から計画的に実施するとともに、成果についてインターネットでの公開など多様な方法を用いて広く一般に普及を図る。また、一般利用者等の意見・要望等を聴取するとともに、外部専門家等の意見を踏まえ、事業の充実に反映させる。 (2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 ア 新国立劇場で上演する現代舞台芸術に関し、上演や作品についての資料調査を実施し、公演の充実等に活用する。 イ 現代舞台芸術に関する図書、文献資料、視聴覚資料、主催公演の上演情報等を収集し、閲覧・視聴に供する。また、他の劇場施設等への貸与を行う。 ウ 収集した資料等を次のとおり展示公開し、舞台美術センター資料館の来場者数については、前中期目標期間の実績以上とする。 ・舞台美術センター資料館年2企画程度 (3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施 ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する。 イ 公演記録映像については、鑑賞会等を開催するとともに、必要な著作権処理を行った上で、劇場上映やインターネット配信、販売等の一層の有効活用を図る。 ウ 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開の講座、鑑賞会等を実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行い、前中期目標期間の実績以上の参加者数を確保するとともに、適宜、参加者へのアンケート調査を行い、平均して回答者の80%以上から有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。また、公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施する。	実績報告書等 参照箇所					
	業務実績報告書 216頁～232頁					
		H20	H21	H22	H23	評定
	現代舞台芸術の調査研究	B	B	B	B	B
現代舞台芸術の資料の収集・活用	B	B	B	B	A	
公演記録の作成・活用、普及活動の実施	A	B	A	B	A	

【インプット指標】					
(中期目標期間)	H20	H21	H22	H23	H24
現代舞台芸術の調査研究 決算額(百万円)	7	3	8	10	11
現代舞台芸術の調査研究	7	7	7	6	4

従事人員数(人)					
現代舞台芸術の資料の収集・活用 決算額(百万円)	145	148	146	141	145
現代舞台芸術の資料の収集・活用 従事人員数(人)	7	7	7	6	4
公演記録の作成・活用、普及活動の実施 決算額(百万円)	16	14	12	9	8
公演記録の作成・活用、普及活動の実施 従事人員数(人)	7	7	7	6	4

○現代舞台芸術の調査研究

- 1) 決算額は、新国財団：一般管理費(調査研究、図書・資料収集)(財団委託費)を計上している。
- 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

○現代舞台芸術の資料の収集・活用

- 1) 決算額は、新国財団：情報システム借料、情報システム維持管理費、一般管理費(図書・資料収集、閲覧室業務)(財団委託費)を計上している。
- 2) 従事人員数は、新国立劇場・おきなわ部管理課新国立劇場系の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

○公演記録の作成・活用、普及活動の実施

- 1) 決算額は、新国財団：一般管理費(公演記録データ管理、閲覧室業務、展示公開、講座等)(財団委託費)を計上している。
- 2) 従事人員数は、新国立劇場部の常勤職員の人数を計上している。
その際、役員及びその他の職員は勘案していない。

評価基準(年度計画及び評価の視点)	実績	分析・評価								
4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用 中期計画に基づき、次のとおり調査研究並びに資料の収集及び活用を実施し、公演等の充実に資するとともに、その成果を研究者や国民一般に提供したか。また、実施にあたっては、外部専門家等との連携を図ったか。 (2) 現代舞台芸術に関する調査研究	<p>(1) 海外戯曲の翻訳に関する調査等</p> <p>1. 海外戯曲に関する調査研究の結果発表</p> <p>宮田慶子演劇芸術監督及び3名の企画サポート委員による「企画サポート会議」を定期的開催し、その成果として、下表のとおり、直近の演劇公演に合わせた講演会やリーディング等の「マンスリー・プロジェクト」を実施した。また、その記録内容をホームページにて公開した。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">実施年月日</th> <th style="width: 30%;">内容</th> <th style="width: 20%;">講師等</th> <th style="width: 25%;">参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	実施年月日	内容	講師等	参加者数					<p>・バレエの出版物「三人のパブロワ」は、内容が現代の観客の関心に応えるものでもなく、鑑賞を深めるのに役立つとも思えないため、限られた研究的観点に偏らないよう留意されたい。</p> <p>・オペラにおいては、「戦後のオペラ」の刊行、「ピーター・グライムズ」のリブ</p>
実施年月日	内容	講師等	参加者数							

<p>の実施並びに資料の収集及び活用</p> <p>ア 新国立劇場で主催する現代舞台芸術に関し、上演や作品について以下のとおり資料調査を実施するとともにホームページ等を活用して広く一般にその成果を公開したか。</p> <p>① 海外戯曲の翻訳についてその背景を広く調査し、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果に基づいて講演会やリーディング公演を実施したか。</p> <p>② 主催公演の実施にあたり、観客の作品内容への理解を促進するため、民間出版社と連携して新訳戯曲を刊行したか。</p> <p>③ 海外の主要劇場等から収集した情報を引き続き分析して、公演の充実等に活用するとともに、情報センターにおいて一般に向けて公開したか。 また、各国主要劇場の概要を公演プログラムに記載し、ホームページで広く公開したか。</p> <p>④ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、引き続き、整理・保存を行い、活用を図ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペラ 146 公演 ・バレエ 86 公演 ・現代舞踊 61 公演 ・演劇 131 公演 <p>⑤ 過去の上演作品及び関連情報について、著作権等の調査を行い、今後の活用に資したか。</p> <p>⑥ 我が国の近代の洋舞上演</p>	4月9日(月)	トークセッション 「戯曲を書くということ」	出席者: 倉持裕、蓬萊竜太、前川知大 聞き手: 鈴木理映子	265人	<p>レット対訳を出版したことは、評価できるが、今後はこの路線をさらに発展させることを、期待したい。</p> <p>・ホワイエにおける展示も鑑賞に役立っており、環境の向上という点からも成果を挙げている。</p> <p>・オペラ・バレエの公演記録は着実に整備されつつある。</p> <p>【現代舞台芸術の調査研究】</p> <p>・調査研究は着実に実施されており、民間出版社と連携した取組がなされているが、その内容について学問的・専門的知見が希薄である。</p> <p>【現代舞台芸術の調査研究資料の収集・活用】</p> <p>・図書資料のデータベース化は目標を達成しており、展示公開についても、計画3回に対し、6回実施し、目標を達成している。</p> <p>・主催公演の参考書籍の公開、ポスターなどを情報センターで公開・展示しており、改善が認められる。</p> <p>【公演記録の作成・活用、普及活動の実施】</p> <p>・上演の理解を深めるための各種講座の開催回数は、計画に対し2回増</p>
	5月12日(土) 5月13日(日)	リーディング公演 「エリ・プレスマン作『ドン!』」	出演: 中嶋しゅう、粟野史浩、熊坂理恵子 翻訳: 佐藤康 演出: 宮田慶子	250人 167人	
	6月9日(土)	演劇講座 「『サロメ』でワイルドは何を描きたかったのか?」	講師: 平野啓一郎	466人	
	7月7日(土)	演劇講座 「ハロルド・ピンターの世界」	講師: 喜志哲雄	238人	
	8月3日(金) 8月4日(土) 8月5日(日)	ワークショップ 夏休み特別企画 「子どもと親のコミュニケーション・ワークショップ」	講師: 西垣耕造	22人 22人 35人	
	9月7日(金) 9月8日(土) 9月9日(日)	ワークショップ 「リーディングをやってみる?」	講師: 宮田慶子	26人 39人 41人	
	10月8日(月・祝)	演劇講座 「リチャード三世の魅力」	講師: 小田島雄志、鶴山仁 ゲスト: 岡本健一	585人	
	11月10日(土)	演劇講座 「ミラー・アメリカ・20世紀、そして21世紀」	講師: 水谷八也、黒川陽子	217人	
	12月7日(金) 12月8日(土)	演劇講座 シリーズ「世界の演劇の今」I -イギリス-	講師: 古城十忍、みなもごろう	75人 85人	
	1月18日(金) 19日(土)	演劇講座 シリーズ「世界の演劇の今」II -韓国-	講師: 木村典子	85人 63人	
	2月15日(金) 16日(土)	演劇講座 シリーズ「世界の演劇の今」III -ドイツ-	講師: 新野守広	80人 66人	
	3月16日(土)	トークセッション 「福田善之の世界」	講師: 福田善之、扇田昭彦	149人	
		12講座	計	2,976人	

2. 調査研究の成果に基づく上演等

情報センター現代戯曲研究会が翻訳した戯曲を使用して、他の劇場において「THAT FACE~その顔」(東京)、「アテンプツ・オン・ハー・ライフ」(東京、伊丹、仙台)、「キック」(京都)、「ハーベスト」(東京)の4作品が上演されるなど、実演芸術団体との連携・協力に資した。

(2) 新訳戯曲の刊行

主催公演の実施にあたり、観客の作品内容への理解を促進するため、民間出版社と連携して新訳戯曲等を刊行した。

- ・ 2011/2012シーズン演劇公演「サロメ」の戯曲を光文社古典新訳文庫から刊行した。

<p>に関して、引き続き、ホームページで公開したか。</p> <p>イ 現代舞台芸術に関する図書、文献資料、視聴覚資料、主催公演の上演情報等を広く収集し、分類整理して公演の実施に活用し、一般の閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行ったか。</p> <p>ウ 情報センターの利用を促進させるため、開架図書を充実させ、外部の機関のデータベースを利用した記事、論文等の検索を含めたインターネット検索機能の充実等、資料及びその利用環境の向上に努めたか。</p> <p>エ 図書資料管理システムのデータベースを充実させるため、以下の件数を新たに登録し、公演の実施に活用するとともに、一般に向けホームページで公開したか。また、非出版資料については、必要な著作権等の処理を行った上で閲覧に供したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書: 約 700 件 ・その他資料: 約 500 件 ・他団体のプログラム等: 約 600 件 <p>オ 所蔵品管理システムへの過去の寄贈資料のデータ登録を引き続き行い、公開点数をさらに増やすとともに、インターネットで検索可能としたか。</p> <p>カ 収集した図書、衣裳、舞台装置等の資料を適切に保管するとともに、平成 24 年度年度計画 [別表 5] のとおり展示公開したか。展示公開に当たっては、展示目録等を作成するとともに、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図ったか。</p> <p>[平成 24 年度年度計画別表 5 の概要]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2012/2013シーズン演劇公演「るつぼ」の戯曲を『悲劇喜劇』2012年11月号に掲載して刊行した。 ・ 2012/2013シーズン演劇公演「音のない世界で」の戯曲を『悲劇喜劇』2013年2月号に掲載して刊行した。 <p>(3) 海外の主要劇場の調査研究・活用 国内外の劇場の運営主体、組織図、勤務者数、公演入場率等について、劇場のホームページや年報等の情報を基に調査・比較を行った。 また、昨年度に引き続き、新国立劇場通信「世界の劇場」として、ナショナル・シアター(国立劇場)を中心に、世界 7 カ国(スコットランド、イスラエル、アイルランド、ジャマイカ、イングランド、カナダ、ロシア)の劇場の概要をプログラムやホームページにおいて発信した。</p> <p>(4) 主催公演の公演記録映像等の整理・活用等 ポスター、衣裳などの主催公演資料を管理する所蔵品管理システムのデータの移行を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オペラ 146 公演 ・ バレエ 86 公演 ・ 現代舞踊 61 公演 ・ 演劇 131 公演 <p>(5) 過去の上演作品に関する著作権等の調査・活用等 新国立劇場ホームページでの掲載情報について、著作権等の調査を実施し、記述内容を更新した。</p> <p>(6) 日本の近代の洋舞上演に関する調査結果の公開等 情報センター発行の「日本洋舞史年表 I～VI」(1900～1985)を新国立劇場ホームページで公開し、研究者や一般の利用に供した。なお、この資料に所収の洋舞史データを、提携している学校法人東成学園・昭和音楽大学舞台芸術センターバレエ研究所に提供した。同研究所では、当該データをもとに、「バレエ情報総合データベース」の公開を目指している。</p> <p>(7) 資料の収集と公開</p> <p>1. 収集・閲覧等</p> <table border="1" data-bbox="584 1203 1738 1474"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>収集</th> <th>閲覧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書・資料の収集・閲覧</td> <td> 収集図書: 3,728 冊 単行本 854 冊 逐次刊行物 561 冊 プログラム 2,231 冊 公演・演出台本 82 冊 収集視聴覚資料: 78 件 主催公演記録映像 53 件 その他受贈等 16 件 作製 9 件 </td> <td> 閲覧室利用者数: 29,708 人 うち、ビデオブース利用者数: 2,824 人 ビデオシアター利用者数: 3,110 人 図書貸出件数: 685 件(1,410 冊) 開室日数: 294 日 </td> </tr> </tbody> </table>	区分	収集	閲覧	図書・資料の収集・閲覧	収集図書: 3,728 冊 単行本 854 冊 逐次刊行物 561 冊 プログラム 2,231 冊 公演・演出台本 82 冊 収集視聴覚資料: 78 件 主催公演記録映像 53 件 その他受贈等 16 件 作製 9 件	閲覧室利用者数: 29,708 人 うち、ビデオブース利用者数: 2,824 人 ビデオシアター利用者数: 3,110 人 図書貸出件数: 685 件(1,410 冊) 開室日数: 294 日
区分	収集	閲覧					
図書・資料の収集・閲覧	収集図書: 3,728 冊 単行本 854 冊 逐次刊行物 561 冊 プログラム 2,231 冊 公演・演出台本 82 冊 収集視聴覚資料: 78 件 主催公演記録映像 53 件 その他受贈等 16 件 作製 9 件	閲覧室利用者数: 29,708 人 うち、ビデオブース利用者数: 2,824 人 ビデオシアター利用者数: 3,110 人 図書貸出件数: 685 件(1,410 冊) 開室日数: 294 日					

 であり、普及活動に積極的に取り組んでいる。 ・特に、現代舞台芸術入門講座の参加者は1回当たり約 250 名であり、新国立劇場の講座では有意義と回答した割合は 95.3%と極めて高く、評価できるとしている。 ・DVD現代舞台芸術鑑賞会の入場者は、1回当たり、舞台美術センター資料館では平均 15.5 人、新国立劇場情報センターでは平均 24.5 人となっており、十分集客できているとは言えない。今後は、実施方法、広報等を見直し、集客に努められたい。 |

<p>展示に関する計画(目標来場者数) ・舞台美術センター資料館(800人)</p> <p>(3) 公演記録の作成・活用、普及活動の実施</p> <p>ア 主催公演を中心に、録音・録画・写真等による記録を作成し、閲覧・視聴に供したか。引き続き、磁気テープで保存されている公演記録映像のデジタルデータへの変換を行ったか。また、本館での公演記録映像の視聴に際しては、デジタル媒体による提供を行い、より質の高いサービスを目指したか。また、新国立劇場では、過去の上演作品及び関連情報について、必要な著作権等の処理を行った上で閲覧・視聴に供したか。</p> <p>イ 公演記録映像について、鑑賞会を開催し、講座・レクチャー等で活用するとともに、必要な著作権処理を行った上で、外部制作会社等と連携して、DVDを作成する等の有効活用を図ったか。</p> <p>ウ 講座等の実施</p> <p>① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開の講座、公演記録映像の鑑賞会等を平成24年度年度計画[別表6]のとおり実施したか。また、広報活動を十分に行うとともに、参加者に適宜アンケート調査を実施し、回答者の80%以上から有意義であったと回答されるよう内容等の充実に努めたか。</p> <p>② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開したか。</p> <p>オ 新国立劇場ホームページにおいて、オンラインコンテンツ「現代</p>	<p>舞台美術センター資料館</p>	<p>—</p>	<p>資料館利用者数:1,197人 うち、AVコーナー利用者数:456人 開室日数:278日</p>	<p>・ 新国立劇場主催公演に関する上演資料のほか、我が国の現代舞台芸術に関する資料を収集した。</p> <p>・ 図書については、新国立劇場情報センター閲覧室で閲覧に供している。映像は、情報センター内ビデオブース、ビデオシアターで視聴に供しているが、舞台美術センター資料館(千葉県銚子市豊里台)内AVコーナーでも同様に視聴に供した。</p> <p>2. 情報センター等の利用促進</p> <p>・ 主催公演の期間中にその公演に関連する各種の参考書籍を開架にて閲覧できるようにするとともに、閲覧室内に展示スペースを設けて作品関連のポスターの掲示や、プログラムを自由に閲覧できるようにする等、利用者の利便性を向上するための工夫に力を注いだ。</p> <p>・ 図書資料管理システム及び所蔵品管理システムを一般の利用者に公開した。公開に当たっては、外部の公演及び主催公演を通じて収集した図書・視聴覚資料に加え、ポスター、展示衣裳、小道具、装置模型、貴重書、その他各種寄贈資料についても、利用者が検索可能とし、また、一部の資料については、システム画面上での閲覧にも供する等、利用環境の向上に努めた。</p> <p>・ 舞台美術センター資料館が、銚子市の「まちあるきスタンプラリー」のラリー地点の一つとなり、銚子市報・映像、銚子電鉄、読売新聞、ぐるっと千葉等のパンフレットなどで紹介された。</p> <p>3. 図書資料管理システムのデータベースの充実</p> <p>以下の図書資料を新たに登録し、公演の充実に資するとともに、ホームページで公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書:854件 ・ その他資料:643件 ・ 他団体のプログラム等:2,231件 <p>4. 所蔵品管理システムへの登録</p> <p>プログラム、ポスター、台本、衣裳などの主催公演資料、寄贈書、貴重書などを管理する所蔵品管理システムの入力項目等の整理を行い、カスタマイズを完了させて、データの移行を実施した。</p> <p>また、インターネット上及び閲覧室内で所蔵品管理システムを一般の利用者に公開し、登録資料を検索可能な態勢を整えたほか、一部の資料については閲覧にも供した。</p> <p>(8) 展示</p> <p>現代舞台芸術に対する理解を促進するため、情報センターで収集した資料(主催公演に関する衣裳・舞台装置などの舞台美術等)及び関係資料を、新国立劇場内及び舞台美術センター資料館(千葉県銚子市豊里台)で展示公開した。</p> <p>(1) 舞台美術センターにおける展示 ※目標来場者数:800人</p> <p>舞台美術センターでは、常設展を実施したほか、企画展は演劇シーズンのシリーズテーマに沿って「[美×劇]—三島由紀夫と泉鏡花の世界—」展と、オペラシーズンの開幕演目「ピーター・グライムズ」の上演及び作曲者の生誕100周年に合わせて「ベンジャミン・ブリテン」展をそれぞれ実施した。</p> <table border="1" data-bbox="613 1426 1720 1474"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>期間</th> <th>内容</th> <th>来場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	期間	内容	来場者数				
区分	期間	内容	来場者数									

舞台芸術入門オンラインツアー」を公開して、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信したか。また、ビデオシアターでの上映や、必要に応じて DVD 等の二次媒体を作成し、学校等への頒布や広報資料として活用を進めたか。

[平成 24 年度年度計画別表 6 の概要]
鑑賞会・講座等に関する計画
・DVD 現代舞台芸術鑑賞会等(舞台美術センター資料館)13 回
・現代舞台芸術入門講座等(新国立劇場情報センター)24 回

常設展	4/1~3/31	「オペラハウスの感動」	1,197 人
	4/1~11/5	「現代演劇ポスター展 2010」(23 年度より継続)	
	11/8~3/31	「現代演劇ポスター展 2011」(25 年度まで継続)	
	11/8~3/31	「イギリス関連舞台写真展」(11 月~)	
企画展	4/1~2/24	「[美×劇]—三島由紀夫と泉鏡花の世界—」展(23 年度より継続)	
	2/27~3/31	「ベンジャミン・ブリテン」(平成 25 年度まで継続)	

(2) 新国立劇場情報センターにおける展示

区分	期 間	内 容	来場者数
企画展	9/4~11/4	【英国舞台芸術フェスティバル関連展示】 「シェイクスピア特別展」	5,571 人

- ・ 情報センター閲覧室では、シェイクスピア「ファースト・フォリオ」(戯曲全集の初版)をはじめ、シェイクスピア劇の銅版画、作品肖像画集、シェイクスピア生誕地の写真画像、日本でのシェイクスピア上演作品のチラシなど、シェイクスピア特別展を実施した。
- ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」の公演期間に合わせて、子供向けのバレエやオペラの絵本展示を実施するなど、常時情報センター所蔵品の展示公開を行った。

(3) 新国立劇場(ホワイエ)における展示

- ・ 常設展のほか、主催公演に連動する形で来場者を対象に資料の展示を行った。
- ・ 開場 15 周年に当たる 24 年度、2012/2013 シーズンの開幕公演として、オペラ「ピーター・グライムズ」、バレエ「シルヴィア」、演劇「リチャード三世」と、3 部門とも英国ゆかりの作品を上演することから、英国の公的な国際文化機関であるブリティッシュ・カウンシルとの共催により、英国をテーマに舞台芸術の普及を図る企画「新国立劇場・英国舞台芸術フェスティバル 2012」を開催した。

劇場ホワイエでは、「新国立劇場上演のイギリス関連作品舞台写真展」「英国を彩るバラと舞台芸術展」を実施した。

オペラ劇場ホワイエでは、ブリテン及び「シルヴィア」の関連資料を展示した。

中劇場ホワイエでは、「リチャード三世」登場人物関係系図、模型、シェイクスピア年譜などを展示し、「シェイクスピアの世界展」を実施した。

- ・ 2013 年がヴェルディとワーグナーという 2 大作曲家の生誕 200 年にあたり、これを機にクラシック音楽のさらなる発展を図るため、国内外有数のオペラ団、オーケストラ等が一堂に会して 1 年間にわたって共同プロモーションを行う「2013 ヴェルディ&ワーグナー生誕 200 年祭」が開幕した。

新国立劇場では、これに合わせて関連する展示を実施した。オペラ劇場ではヴェルディ&ワーグナーの生誕 200 年祭の一環として、2 大作曲家の年譜、新国立劇場上演の舞台写真、「椿姫」「アイダ」の衣裳、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」自筆スコアを展示した。

区分	期 間	内 容	来場者数
常設展	通年	舞台衣裳展示	-
	通年	公演記録写真展示	-
公演関連展示	10/2～14	【英国舞台芸術フェスティバル関連展示】 ブリテン関連資料展示	6,238 人
	10/2～21	【同上】 「シェイクスピアの世界展」	11,662 人
	10/2～11/3	【同上】 「新国立劇場上演のイギリス関連作品舞台写真展」	12,718 人
	10/2～11/3	【同上】 「英国を彩るバラと舞台芸術展」	12,718 人
	10/27～11/3	【同上】 シルヴィア関連資料展示	6,480 人
	1/23～3/31	2013 年ヴェルディ&ワーグナー生誕 200 年祭関連 資料展示	24,928 人

※ 来場者数は、公演の来場者数。

(9) 普及出版物の刊行

・「戦後のオペラ 1945～2013」(25 年 3 月)

第二次世界大戦後、世界のオペラがどんな動きをし、どんな作品を生んできたのか、日本人作曲家による海外の劇場での世界初演作品も含め、戦後のオペラを 57 作品取り上げ、作品ガイドとなる小冊子を作成した。

・「日本のバレエ 三人のパブロワ」(25 年 3 月)

日本に洋舞が移入されて 100 年が経ち、日本の土壌における芸術としてのバレエの普及、啓蒙に尽力したロシアの三人の舞踊家の功績と日本のバレエとの関わりを検証した小冊子を作成した。

・「ピーター・グライムズ リブレット対訳」(24 年 10 月)

既存の日本語訳が未出版の演目のリブレット対訳を、上演に合わせて新たに作成した。

・「新国立劇場名作オペラ 50 鑑賞入門」(24 年 11 月)※世界文化社から刊行

新国立劇場監修の下、同新国立劇場において上演した人気オペラ 50 作品を、各種公演記録をもとに紹介する書籍が世界文化社から刊行された。なお、この書籍の鑑賞入門特別付録 DVD 「オペラのつくりかた～新国立劇場へようこそ」の素材には、情報センター編集・製作(22 年度オペラ編)の現代舞台芸術入門オンラインツアーが使用されている。

(10) 公演記録映像の作成・活用

現代舞台芸術に関する理解の促進と普及を図るため、以下のとおり、講座、公演記録映像の公開・鑑賞会を実施した。

1. 公演記録映像の作成

主催公演を中心に 30 公演について、録音・録画・写真等による記録を作成した。

主催公演の公演記録映像のデータベース化を 17 件行った。

2. 公演記録映像の有効活用

(1)公演記録映像の公開

以下の主催公演の公演記録映像を情報センター閲覧室にて追加公開した(17件)。

- ・ オペラ(9件):「イル・トロヴァトーレ」、「オテロ」、「こうもり」、「さまよえるオランダ人」、「ばらの騎士」、子どものためのオペラ劇場「パルジファルとふしぎな聖杯」、「沈黙」、「ラ・ボエーム」、「ルサルカ」
- ・ バレエ(2件):「トリプル・ビル」、「ラ・シルフィード」
- ・ コンテンポラリーダンス(3件):「Shakespeare THE SONNETS」、近松 DANCE 弐題 A プログラム「女殺油地獄」、近松 DANCE 弐題 B プログラム「エゴイズム」
- ・ 演劇(3件):「雨」、「イロアセル」、「朱雀家の滅亡」

公演記録写真については、新国立劇場ホームページに「舞台写真・公演記録」ページを設け、9年の開場以降ほぼ全ての公演に関して、公演記録写真及び公演情報等を一般の閲覧に供している。同ページ上にはキーワード、ジャンル、シーズン等によって目的の公演を検索できる機能が備えられており、利便性を高めている。

(2)DVD 現代舞台芸術鑑賞会

一般への現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るために主催公演記録映像の鑑賞会を実施した。

ア. 舞台美術センター資料館(千葉県銚子市)2階視聴覚室にて実施(12回)。

実施年月日	内 容	入場者数
4月8日(日)	バレエ「牧阿佐美の椿姫」 (2010年7月公演)	10人
5月13日(日)	オペラ「椿姫」 (2011年2月公演)	17人
6月10日(日)	オペラ「カルメン」 (2010年6月公演)	35人
7月8日(日)	オペラ「アンドレア・シェニエ」 (2010年11月公演)	20人
8月5日(日)	こどもオペラ「パルジファルとふしぎな聖杯」/朗読劇「少年口伝隊一九四五」 (2011年7月公演) (2010年7月公演)	2人
9月9日(日)	バレエ「白鳥の湖」 (2010年1月公演)	31人
10月14日(日)	オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」 (2011年6月公演)	7人
11月11日(日)	オペラ「蝶々夫人」 (2011年6月公演)	20人
12月9日(日)	バレエ「シンデレラ」 (2010年12月公演)	14人
1月13日(日)	演劇「朱雀家の滅亡」 (2011年10月公演)	8人
2月10日(日)	演劇「天守物語」 (2011年11月公演)	15人
3月10日(日)	オペラ「イル・トロヴァトーレ」 (2011年10月公演)	7人

	計	186人
--	---	------

- イ. 新国立劇場情報センター ビデオシアターにて実施(14回)。
- ・ 前年度に引き続き毎月1~4回の鑑賞会を実施した。
 - ・ こどものためのバレエ劇場「シンデレラ」の公演期間は、こども向け公演の記録映像を上映した。
 - ・ 「新国立劇場・英国舞台芸術フェスティバル 2012」として、オペラ「ねじの回転」「オテロ」、演劇「夏の夜の夢」、バレエ「アラジン」の上映会を実施した。

実施年月日	内 容	入場者数
4月15日(日)	バレエ「牧阿佐美の椿姫」 (2010年7月公演)	12人
5月20日(日)	オペラ「ローエングリン」 (1997年11月公演)	39人
6月17日(日)	オペラ「サロメ」 (2011年10月公演)	36人
7月28日(土) 7月29日(日)	こどもオペラ「パルジファルとふしぎな聖杯」 (2011年7月公演)	7人 18人
9月16日(日)	小劇場オペラ「ねじの回転」 (2002年9月公演)	14人
10月7日(日)	オペラ「オテロ」 (2009年9月公演)	26人
10月8日(月・祝)	演劇「真夏の夜の夢」 (2009年6月公演)	32人
10月21日(日)	オペラ「アンドレア・シェニエ」 (2010年11月公演)	24人
10月31日(水)	バレエ「アラジン」 (2011年5月公演)	18人
11月18日(日)	オペラ「蝶々夫人」 (2011年6月公演)	33人
12月16日(日)	演劇「アジアの女」 (2006年9月公演)	13人
1月20日(日)	オペラ「こうもり」 (2011年12月公演)	35人
2月17日(日)	オペラ「ばらの騎士」 (2011年4月公演)	23人
3月17日(日)	オペラ「イル・トロヴァトーレ」 (2011年10月公演)	37人
	計	367人

ウ. レクチャー等

団体観劇者・学校・劇場見学者を対象に、レクチャーや研修会を情報センター ビデオシアターにて実施した(23件 511名)。

(2) 現代舞台芸術に対する理解の促進と普及を図るための鑑賞会・講座等の実施

(1) 現代舞台芸術に関する理解の促進と普及を図るための講座等

名称(会場)	回数	参加者数	アンケートによる 有意義回答の割合
DVD 舞台芸術鑑賞会(舞台美術センター) * 詳細は既出	12 回	186 人	
DVD 舞台芸術鑑賞会(新国立劇場) * 詳細は既出	14 回	367 人	92.4%
現代舞台芸術入門講座(新国立劇場) * マンスリープロジェクトとして既出	12 回	2,976 人	95.3%
現代舞台芸術入門講座(舞台美術センター)	1 回	253 人	90.2%
合 計	39 回	3,782 人	93.5%
計画・目標	37 回	1,700 人	80%

・ 現代舞台芸術入門講座(舞台美術センター資料館)

現代舞台芸術の理解の促進と普及を図るという観点から、現代舞台芸術の展示・公開に加えて、舞台美術センター資料館の入館券の購入者(高校生以下、65 歳以上及び心身障害者は無料)を対象にコンサートを実施した。

舞台美術センターコンサート「銚子!?!のいい仲間たち」

日程:平成 24 年 11 月 7 日(水) 11:00(一般)／14:00(銚子第七中学校貸切)

出演:新国立劇場合唱団員

直野容子(ソプラノ)、立川かずさ(アルト)、大木太郎(テノール)、秋本 健(バス)、飯坂 純(ピアノ)

曲目:歌劇“ファウスト”より「宝石の歌」、

歌劇“サムソンとデリラ”より「あなたの声に私の心は開く」、「忘れな草」、「アヴェ・マリア」に寄せて ほか

場所:新国立劇場舞台美術センター資料館 1F 展示ホール

入場者数:253 人

(2)公演内容に対する理解の促進を図るための講座等

内 容	名 称
-----	-----

全体イベント	<p>英国舞台芸術フェスティバル 2012 共催: プリティッシュ・カウンシル</p> <p>開場 15 周年にあたる平成 24 年度、2012/2013 シーズンの開幕公演としてオペラ「ピーター・グライムズ」、バレエ「シルヴィア」、演劇「リチャード三世」と、3 部門とも英国ゆかりの作品を上演。このことから、10 月のシーズンオープニングに合わせ、英国の公的な国際文化機関であるプリティッシュ・カウンシルとの共催により、英国をテーマに舞台芸術の普及を図る企画「新国立劇場・英国舞台芸術フェスティバル 2012」を劇場を挙げて開催した。</p> <p>同フェスティバルの関連企画として、各演目や英国の文化芸術に関連する各種の講座、トークセッション、展示、上映会、装飾等を実施し、関心を刺激するとともに活気に満ちた空間で来場者を迎えた。</p> <p><イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング・トークセッション「ベンジャミン・ブリテンの世界」 ・シアター・トーク「リチャード三世」 ・ミニトーク「英国を彩るバラと舞台芸術展」 ・マンスリー・プロジェクト演劇講座「リチャード三世の魅力」 <p><上映会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小劇場オペラ「ねじの回転」 ・オペラ「オテロ」 ・バレエ「アラジン」 ・演劇「夏の夜の夢」
--------	---

内 容	名 称	回数	参加者数
オペラ関連	国際連携協力関連イベントトークセッション(「ローエングリン」「ベンジャミン・ブリテンの世界」)、2013/2014 シーズンオペラ演目説明会	3 回	425 名
バレエ・現代舞踊関連	終演後トーク(「DANCE to the Future2012」)、スペシャルトーク(高谷史郎×高木正勝)、公開リハーサル(「テイク・ファイブ」)、2013/2014 シーズンバレエ&ダンス演目説明会	4 回	1,050 名
演劇関連	シアタートーク(「まほろば」「負傷者 16 人」「サロメ」「温室」「リチャード三世」「るつぼ」「音のいない世界で」「長い墓標の列」) 舞台稽古見学・プレトーク(「サロメ」、演出家によるスペシャルトーク(「サロメ」)、	10 回	3,471 名

【特記事項】

- ・「2013 ヴェルディ&ワーグナー生誕 200 年祭」キックオフ記者会見への一般参加
2 大作曲家の生誕 200 年にちなみ、二人の作品を上演する国内外有数のオペラ団体やオーケストラが一堂に会し、これを盛り上げようとする「2013 ヴェルディ&ワーグナー生誕 200 年祭」。この記者会見を一般公開した。
平成 24 年 12 月 5 日(水) オペラ劇場ホワイエ
参加団体: 新国立劇場、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京二期会、東京・春・音楽祭、トリノ王立歌劇場(ジャパン・アーツ)、藤原歌劇団(日本オペラ振興会)、読売日本交響楽団、ローソン HMV エンタテイメント、MET ライブビューイング(松竹)
ゲスト: 茂木健一郎(脳科学者)、司会: 松本志のぶ
一般参加者: 60 名
- ・日本ヴェルディ協会・日本ワーグナー協会共催例会
ヴェルディ、ワーグナー生誕 200 年を記念した両協会初の共催例会に協力し、一般公開として、専門家による 2 大作曲家のオペラの特徴や魅力を周知した。

平成 25 年 3 月 2 日(土) オペラ劇場ホワイエ
ゲスト:加藤浩子(音楽評論家)、山崎太郎(東京工業大学教授、ドイツ文学)
参加者数:約 100 名

(3) 現代舞台芸術の普及のための、オンラインコンテンツの公開等

(1)現代舞台芸術入門オンラインツアー

映像でわかりやすく伝える情報センター編集・制作のオンラインツアー「オペラのつくりかた」「バレエのつくりかた」に続く、シリーズ最終編「演劇のつくりかた」を制作。3 月演劇公演『長い墓標の列』に出演する演劇研究所出身の俳優男女 2 人がレポーターとして出演して、それぞれの現場をナビゲートし、スタッフの打ち合わせ、稽古の進行、スタッフの声を交えながら、本番初日までを撮影する内容で、ホームページで公開するとともに、このコンテンツの一部を編集してDVDを製作し、新国立劇場ビデオシアターでの上映、学校等への頒布や広報資料として活用することを予定している。

【特記事項】

前年度の東京藝術大学に続き、武蔵野音楽大学、国立音楽大学、東京音楽大学、大阪音楽大学、桐朋学園大学、北海道教育大学、昭和音楽大学の 7 大学との間で連携・協力に関する協定を締結した。

このことにより、調査研究においても各大学との連携・協力による内容の充実が期待されている。

《数値目標の達成状況》

- 【展示公開の実施状況】実績6回／計画3回(達成度200%)
- 【展示公開の参加者数】実績1,197人／計画800人(達成度 149.6%)
- 【講座等の実施状況】実績39回／計画37回(達成度105.4%)
- 【講座等の参加者数】実績3,782人／計画1,700人(達成度222.5%)
- 【講座等の満足度】実績93.5%／計画80%(達成度116.9%)

《自己点検評価》

○ 良かった点・特色ある点

- ・ 現代舞台芸術に関する調査研究の成果を著すため、「戦後のオペラ 1945～2013」及び「日本のバレエ 三人のパブロワ」の 2 冊を刊行した。また、オペラ主催公演に合わせ「ピーター・グライムズ リブレット対訳」を作成した。
- ・ 新国立劇場の公演記録を元に外部出版社により「新国立劇場名作オペラ 50」が刊行された。
- ・ 公演プログラムにおいては、オペラ・バレエ・演劇の主催公演上演演目に関し、多様な観点からの調査研究に基づく記事を多数掲載し、来場者の理解促進の一助となるのみならず、演目毎に調査研究の成果をまとめる場としても高い評価を得た。
- ・ 海外戯曲に関する調査研究においては、翻訳戯曲のリーディング形式等による上演を通じてその結果を発表するとともに、宮田慶子演劇芸術監督及び 3 名の企画サポート委員により定期的開催さ

	<p>れる「企画サポート会議」の成果として、毎月直近の演劇公演にリーディング、講座、トークセッション、ワークショップなどにより多角的にアプローチする「マンスリー・プロジェクト」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各国主要劇場の調査研究活動が、次年度における海外の演劇人と新作に取り組むシリーズ企画「With-つながる演劇-」の 3 作品連続上演(2012/2013 シーズンウェールズ編「『効率学のスヌメ』」、韓国編「アジア温泉」、ドイツ編「つく、きえる」)に結び付くなど、公演の充実にも資した。 ・ 現代舞台芸術に関する調査研究の成果に基づく上演として、情報センター現代戯曲研究会翻訳の戯曲から 4 作品が上演され、実演芸術団体との連携・協力を資した。 ・ 24 年度には新たに 7 つの大学との間で連携・協力に関する協定を締結し、このことにより、調査研究においても各大学との連携・協力による内容の充実が期待されている。 ・ 展示においては情報センターで収集した資料(主催公演に関する衣裳・舞台装置などの舞台美術等)及び関係資料を新国立劇場内及び舞台美術センター資料館において展示公開し、現代舞台芸術に対する理解を促進した。展示は常設展のほか、主催公演に連動する形で各種企画展を実施し、24 年度は特に「新国立劇場・英国舞台芸術フェスティバル 2012」及び「2013 ヴェルディ&ワーグナー生誕 200 年祭」の開催に合わせて各種の関連展示を実施した。 ・ 公演の実施に合わせた関連講座等として、各種トークイベント、演目説明会、公開舞台リハーサル、上映会など多種多様な公演関連企画を実施するとともに、内容に応じてその模様をホームページ等で紹介した。24 年度は特に「新国立劇場・英国舞台芸術フェスティバル 2012」及び「2013 ヴェルディ&ワーグナー生誕 200 年祭」の開催に合わせて各種の関連企画を実施した。 ・ 現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信するため、現代舞台芸術入門オンラインツアーを公開、24 年度には「オペラのつくりかた」「バレエのつくりかた」に続くシリーズ最終編「演劇のつくりかた」を制作し、ホームページで公開するとともに、このコンテンツの一部を編集して DVD を製作し、新国立劇場ビデオシアターでの上映、学校等への頒布や広報資料として活用を予定している。 	
--	--	--